

平成16・17年度

# 国分寺市埋蔵文化財調査年報

2007年3月

国分寺市教育委員会



## 例 言

1. 本書は、東京都国分寺市において、平成16・17年度実施した個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査および民間開発に伴う確認調査の概要をまとめたものである。なお、付編として昭和50年代に実施した個人住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の内、遺構・遺物の検出が無かった小規模調査を掲載した。
2. 発掘調査は文化庁と東京都の補助を受け、国分寺市教育委員会が調査主体者となり、国分寺市遺跡調査会に委託して調査を実施した。
3. 調査の基準線は、武蔵国分寺跡においては僧寺金堂・講堂間に原点を置く極地座標系（国家座標系に変換可）による。恋ヶ窪遺跡他等においては国家座標第9系による。
4. 各調査の出土遺物および調査記録は、国分寺市教育委員会で保管している。
5. 調査次数は、遺跡毎に連続番号を与えて登録している。
6. 本書の編集は上敷領久が担当した。

## 凡 例

1. 本書に記載した各遺跡における遺構表示は下記の番号を冠して遺構毎に連続番号を与えて登録している。縄文時代遺構は末尾にJを付す。

SB（礎石建物・掘立柱建物）	SI（竪穴住居）	SD（溝跡）	SK（土坑）
SX（特殊遺構・その他）	ST（石器集中地点）	SR（礫群）	P（小穴）

2. 記載した遺物は下記の遺物番号を冠して表示した。

歴史時代

PK（須恵器） MA（銭貨）

縄文時代

土器類 JF（中期後半）

石器類 AB（石鏃）

旧石器時代

FA（ナイフ形石器）

3. (1) 遺構の実測図の縮尺は下記に示すものを基本としており、その都度、スケールバーを図面の下に示している。

遺構 全体図 1/100 1/150 1/200 1/300

- (2) 遺物図版の縮尺は下記のとおりである。

歴史時代

土器類 1/2 墨書部分・銭貨 1/1

縄文時代

土器類 1/3 石鏃 1/1

旧石器時代

ナイフ形石器 1/1

## 目 次

例 言	(1)	平成17年度 各調査の概要とまとめ	
凡 例	(1)	① 武蔵国分寺跡第591次調査 確認調査	(54)
目 次	(2)	② 武蔵国分寺跡第593次調査 個人宅造地	(56)
平成16年度遺跡調査会構成員名簿	(3)	③ 武蔵国分寺跡第594次調査 確認調査	(58)
平成17年度遺跡調査会構成員名簿	(4)	④ 武蔵国分寺跡第595次調査 確認調査	(60)
		⑤ 武蔵国分寺跡第596次調査 個人宅造地	(62)
<b>第1章</b>		⑥ 武蔵国分寺跡第597次調査 個人宅造地	(64)
平成16・17年度の概要	(5)	⑦ 武蔵国分寺跡第598次調査 個人宅造地	(66)
		⑧ 武蔵国分寺跡第599次調査 確認調査	(68)
<b>第2章</b>		⑨ 武蔵国分寺跡第600次調査 個人宅造地	(70)
平成16年度 埋蔵文化財調査の概要	(7)	⑩ 武蔵国分寺跡第601次調査 個人宅造地	(72)
平成16年度 調査地区一覧	(8)	⑪ 武蔵国分寺跡第602次調査 個人宅造地	(76)
平成16年度 調査地区位置図	(9)	⑫ 武蔵国分寺跡第604次調査 個人宅造地	(78)
平成16年度 各調査の概要とまとめ		⑬ 花沢西遺跡第17次調査 個人宅造地	(80)
① 武蔵国分寺跡第573次調査 個人宅造地	(10)	⑭ 花沢西遺跡第19次調査 個人宅造地	(82)
② 武蔵国分寺跡第575次調査 個人宅造地	(12)	⑮ 殿ヶ谷戸遺跡第4次調査 個人宅造地	(84)
③ 武蔵国分寺跡第577次調査 確認調査	(14)		
④ 武蔵国分寺跡第579次調査 個人宅造地	(16)	<b>付編</b>	
⑤ 武蔵国分寺跡第580次調査 個人宅造地	(18)	昭和50年代の小規模調査概要	(86)
⑥ 武蔵国分寺跡第581次調査 個人宅造地	(20)	昭和50年代 調査地区位置図	(87)
⑦ 武蔵国分寺跡第582次調査 個人宅造地	(22)	昭和50年代 各調査の概要	
⑧ 武蔵国分寺跡第583次調査 確認調査	(24)	① 武蔵国分寺跡第95次調査 個人宅造地	(88)
⑨ 武蔵国分寺跡第584次調査 確認調査	(26)	② 武蔵国分寺跡第110次調査 個人宅造地	(89)
⑩ 武蔵国分寺跡第586次調査 確認調査	(28)	③ 武蔵国分寺跡第123次調査 個人宅造地	(90)
⑪ 武蔵国分寺跡第587次調査 個人宅造地	(30)	④ 武蔵国分寺跡第159次調査 個人宅造地	(91)
⑫ 武蔵国分寺跡第588次調査 個人宅造地	(34)	⑤ 武蔵国分寺跡第172次調査 個人宅造地	(92)
⑬ 武蔵国分寺跡第589次調査 確認調査	(36)	⑥ 武蔵国分寺跡第178次調査 個人宅造地	(93)
⑭ 恋ヶ窪遺跡第76次調査 確認調査	(38)	⑦ 武蔵国分寺跡第180次調査 個人宅造地	(94)
⑮ 恋ヶ窪遺跡第78次調査 確認調査	(40)	⑧ 武蔵国分寺跡第189次調査 個人宅造地	(95)
⑯ 恋ヶ窪遺跡第79次調査 個人宅造地	(42)	⑨ 武蔵国分寺跡第191次調査 個人宅造地	(96)
⑰ 恋ヶ窪遺跡第80次調査 個人宅造地	(44)	⑩ 武蔵国分寺跡第195次調査 個人宅造地	(97)
⑱ 花沢西遺跡第15次調査 確認調査	(46)	⑪ 武蔵国分寺跡第211次調査 個人宅造地	(98)
⑲ 花沢西遺跡第16次調査 個人宅造地	(48)	⑫ 武蔵国分寺跡第221次調査 個人宅造地	(99)
		⑬ 武蔵国分寺跡第222次調査 個人宅造地	(100)
<b>第3章</b>			
平成17年度 埋蔵文化財調査の概要	(51)		
平成17年度 調査地区一覧	(52)		
平成17年度 調査地区位置図	(53)		

## 平成16年度遺跡調査会構成員名簿

### ——役員および監事——

会 副 理 理 理 理 理 理 理 理 理 理 理 専 務 理 事	長	坂 誥 秀 一	国分寺市文化財保護審議会委員長
	理事	藤 間 恭 助	元国分寺市文化財保護審議会委員
	理事	星 野 信 夫	国分寺市長
	理事	大 平 惠 吾	国分寺市教育委員会委員長
	理事	松 井 敏 夫	国分寺市教育委員会教育長
	理事	星 野 亮 雅	元国分寺市社会教育委員
	理事	関 口 雄 基 臣	国分寺市文化財保護審議会副委員長
	理事	古 関 豊	国分寺市文化財保護審議会委員
	理事	北 原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
	理事	坂 本 克 治	国分寺市文化財保護審議会委員
	理事	関 本 克 治	東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課長
	理事	小 林 文 治	国分寺市教育委員会教育部長
	監 監	監事	榎 戸 潔
監事		岡 崎 完 樹	東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課埋蔵文化財係長

### ——武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会——

委 委 委	委員長	坂 誥 秀 一	(考古学)	立正大学文学部教授
	委員	藤 井 惠 介	(建築史)	東京大学大学院工学系研究科助教授
	委員	佐 藤 信 信	(古代史)	東京大学大学院人文社会系研究科教授

### ——事務局——

事 務 局 事 務 局 事 務 局 事 務 局 事 務 局	局長	本 多 孝 一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
	局員	太 田 和 子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
	局員	齋 藤 美 由 紀	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
	局員	松 崎 亜 希 子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
	局員	中 舎 ま り 子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
	局員	稲 井 亮	国分寺市遺跡調査会

### ——調査団——

団 主 任 調 査 員	長	坂 誥 秀 一	立正大学文学部教授
調 査 員	調査員	福 田 信 夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	調査員	上 敷 領 久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課普及担当係長
調 査 員	調査員	上 村 昌 男	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調 査 員	調査員	中 道 誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調 査 員	調査員	板 倉 欽 之	国分寺市遺跡調査会

## 平成17年度遺跡調査会構成員名簿

### ——役員および監事——

会	長	坂	誥	秀	一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副	事	藤	間	恭	助	元国分寺市文化財保護審議会委員
理	事	星	野	信	夫	国分寺市長
理	事	大	平	惠	吾	国分寺市教育委員会委員長
理	事	松	井	敏	夫	国分寺市教育委員会教育長
理	事	星	野	亮	雅	元国分寺市社会教育委員
理	事	関	口	雄	基	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理	事	古	原	豊	臣	国分寺市文化財保護審議会委員
理	事	北	坂	進	治	国分寺市文化財保護審議会委員
理	事	本	克	治	互	国分寺市文化財保護審議会委員
理	事	関	林	文	治	東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課長
専務	理事	小	林	文	治	国分寺市教育委員会教育部長
監	事	榎	戸	潔	樹	元国分寺市社会教育委員
監	事	岡	崎	完	樹	東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課埋蔵文化財係長

### ——武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会——

委	員	長	坂	誥	秀	一	(考古学)	立正大学文学部教授
委	員	員	藤	井	惠	介	(建築史)	東京大学大学院工学系研究科助教授
委	員	員	佐	藤	信	信	(古代史)	東京大学大学院人文社会系研究科教授

### ——事務局——

事	務	局	長	本	多	孝	一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事	務	局	員	太	田	和	子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事	務	局	員	齋	藤	美	由	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事	務	局	員	松	崎	亜	希	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事	務	局	員	中	舎	ま	り	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
事	務	局	員	稲	井	亮		国分寺市遺跡調査会

### ——調査団——

団	長	坂	誥	秀	一	立正大学文学部教授
主	任	福	田	信	夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調	査	上	敷	領	久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課普及担当係長
調	査	上	村	昌	男	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調	査	中	道	誠		国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調	査	板	倉	歆	之	国分寺市遺跡調査会

## 第1章 平成16・17年度の概要

### 1. 国庫補助金によって実施した発掘調査・整理作業

平成16年度の発掘調査の合計は19地区である。事業別内訳は分譲住宅建設等民間開発に伴う確認調査が8地区であり、本調査に移行したのは2地区である。個人住宅建設に伴う本調査は11地区である。

遺跡別の調査内訳は武蔵国分寺跡13地区（内恋ヶ窪廃寺地区1地区を含む）。恋ヶ窪遺跡4地区。花沢西遺跡2地区である。

整理作業は、武蔵国分寺跡・恋ヶ窪遺跡他市内遺跡における個人住宅建設および確認調査19件の図面整理と出土遺物の基礎整理作業を実施した。

平成17年度の発掘調査の合計は15地区である。事業別内訳は分譲住宅建設等民間開発に伴う確認調査が4地区であり、本調査に移行したのは1地区である。個人住宅建設に伴う本調査は11地区である。

遺跡別の調査内訳は武蔵国分寺跡12地区。花沢西遺跡2地区。殿ヶ谷戸遺跡1地区である。

整理作業は、武蔵国分寺跡・花沢西遺跡他市内遺跡における個人住宅建設および確認調査15件の図面整理と出土遺物の基礎整理作業を実施した。

### 2. 発掘届けの推移

〔発掘届の推移〕

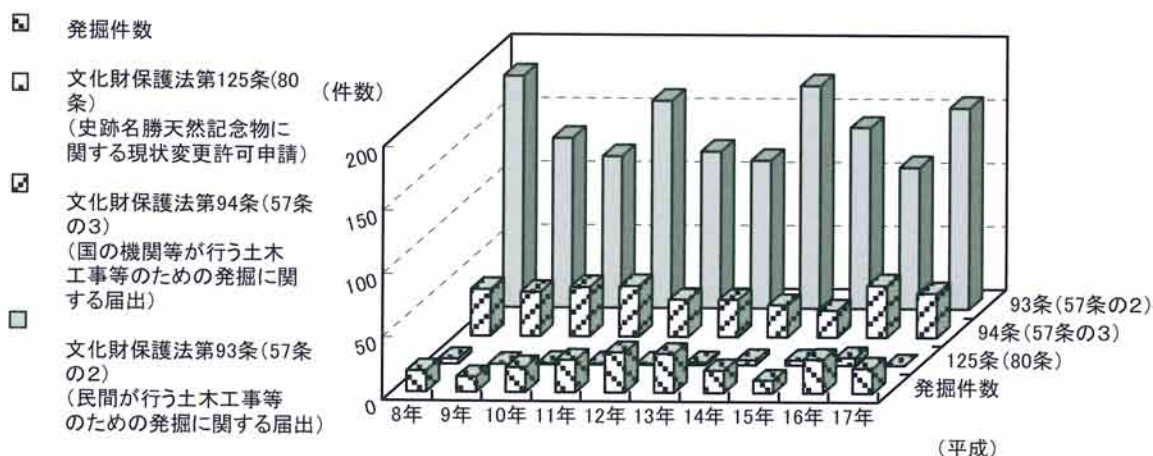


表1

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
発掘件数	17	12	20	26	32	31	18	10	27	20
125条(80条)	4	0	1	1	1	2	4	4	6	0
94条(57条の3)	37	35	39	40	29	29	25	21	41	35
93条(57条の2)	183	134	120	164	124	117	176	143	112	159

### 3. 発掘面積の推移

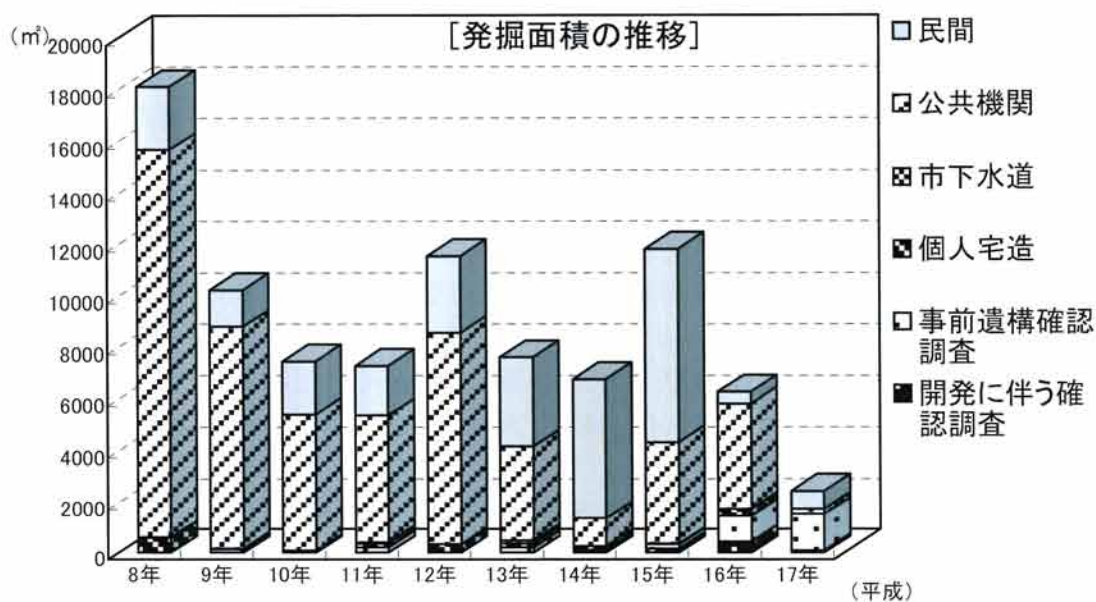


表3

	平成 8年	平成 9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
民間	2435.9	1434.9	2072.5	1932.2	2985.4	3448.2	5395.8	7508.6	455.58	694.74
公共機関	15106	8661	5328.9	4952	8255.9	3707	1114.6	3993	4088.3	215.2
市下水道	24.8	0	0	64.5	0	110.1	0	0	0	0
個人宅造	583.26	38.86	71.89	138.1	330.74	155.44	144.48	18.71	263.41	322.59
遺構確認調査	0	123.5	0	213.7	0	207.67	117.25	177.4	1055.4	1456.3
開発確認調査	0	0	0	0	0	0	0	149.45	430.17	84.55

### 4. 立会調査件数

平成 16 年度 191 件

平成 17 年度 167 件



## 第2章 平成16年度埋蔵文化財調査の概要

### 調査の概要

個人住宅建設に伴う調査は、武蔵国分寺跡8件、恋ヶ窪遺跡2件、花沢西遺跡1件である。

武蔵国分寺跡は、地盤改良する建物基礎部分(④・⑪地区)、排水管等地下埋設管設置部分(①・②・⑤・⑥・⑦・⑫地区)、⑦地区は駐車場部分も対象として調査を行った。僧寺寺院地内4件、寺院地外4件である。

恋ヶ窪遺跡および花沢西遺跡の3件(⑬・⑭・⑮地区)の調査は、ともに排水管理設部分を対象とした調査で、検出遺構はない。

開発計画に伴う確認調査は、武蔵国分寺跡4件、恋ヶ窪廃寺跡1件、恋ヶ窪遺跡2件、花沢西遺跡1件で、このうち、武蔵国分寺跡と恋ヶ窪遺跡とで各1件(⑨・⑭地区)が本調査に移行した。

武蔵国分寺跡は、黒鐘公園入口改修工事部分(⑧地区)、分譲住宅地などにおける埋設管設置部分(⑨・⑩・⑬地区)を対象に調査した。僧寺寺院地内2件、尼寺伽藍地内1件、伽藍地外1件である。恋ヶ窪廃寺跡は、③地区で排水管理設部分を対象に調査し、遺構の検出はない。

恋ヶ窪遺跡は、位置指定道路工事部分を対象とした調査(⑭地区)と排水管理設部分等を対象とした調査(⑮地区)を行い、⑭地区は遺構が検出されたため本発掘調査に移行した。

花沢西遺跡は、位置指定道路工事部分を対象とした調査(⑯地区)を行い、縄文時代の土坑が1基検出された。

### 発見遺構と出土遺物

⑪地区において、平安時代の掘立柱建物と縄文時代の柄鏡型敷石住居が検出された。当該地区は僧寺伽藍地内に位置し、講堂から東へ約180mの場所にあたる。この伽藍中枢部の東側は大型の掘立柱建物が多く検出されており、太衆院・政所院に推定されている地区である。

平安時代の調査では、掘立柱建物が1棟、小穴が27基検出された。掘立柱建物(SB225)は、8個の柱穴が確認された。東西2間、南北3間以上の南北棟で、柱間は約2.4mである。柱穴の切り合い関係により最大で5時期あると考えられ、4回建て替えられている。

縄文時代の調査では、柄鏡形敷石住居1軒(SI770J)、小穴1基が検出された。SI770J住居の円形主体部は半分以上調査区外となり、現状で南北2.5m以上、東西4m以上、深さは確認面より約0.5mである。張り出し部は幅約1.1m、長さ1.8mである。床面直上から10cm～30cmの礫が数点出土し、主体部の壁際に沿って小石が帯状に検出された。この下部からピットが壁際に沿って検出された。出土遺物は中期後半加曾利EIV式から後期初頭の称名寺式の深鉢形土器が主体となり、石鏃、磨石、石皿、多孔石などもある。旧石器時代の遺物としてSI770J住居覆土からナイフ形石器が出土した。

### まとめ

武蔵国分寺跡の主要な遺構としては⑪地区で検出された推定太衆院・政所院地区に相応しい大型の掘立柱建物と⑤地区の寺院地東辺区画溝(SD62)とが挙げられる。

縄文時代では、⑪地区において、中期後半の住居が崖線下の立川面で検出された。中期は恋ヶ窪遺跡など台地上に大規模集落が形成されるが、恋ヶ窪東遺跡で住居跡3軒が検出されるが規模は縮小し、堀之内式・加曾利B式土器が出土する八幡前遺跡が野川に面した立川面に位置するなど、遺跡の立地面でも変化が想定されてきた。今回、⑪地区で中期後半の柄鏡形敷石住居が検出され、近接調査区でも住居の可能性が指摘される称名寺式期の集石土坑が検出されており、中期後半～後期になると崖線下に小規模ながら集落が営まれた状況が確認された。

## 平成16年度調査地区一覽

表3 武蔵国分寺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
①	19	個人宅造地 第573次調査	東元町4丁目 1945-21	9.41	49.49	124.12	H16. 4. 7 ~ H16. 4. 13 (5日間)	(歴史) 小穴9基	1
②	11・19	個人宅造地 第575次調査	西元町2丁目 15-27	7.96	69.48	302.46	H16. 5. 6~H16. 5. 12 (5日間)	(縄文) 土坑1基	1
④	19	個人宅造地 第579次調査	東元町4丁目 17-16	85.57	141.20	516.14	H16. 7. 12~H16. 7. 28 (12日間)	(歴史) 溝1条・土坑1基・ 特殊遺構2基 (縄文) 土坑1基・小穴1基	1
⑤	10・19	個人宅造地 第580次調査	東元町4丁目 1500-7	5.03	45.70	91.78	H16. 8. 24~H16. 8. 30 (5日間)	(歴史) 溝1条	1
⑥	19	個人宅造地 第581次調査	西元町3丁目 3-28	7.20	55.08	134.16	H16. 9. 16~H16. 9. 17 (2日間)	検出遺構なし	0
⑦	10・11	個人宅造地 第582次調査	西元町2丁目 13-9	21.53	71.75	158.81	H16. 9. 30~H16. 10. 15 (7日間)	(歴史) 小穴9基 (縄文) 土坑2基・小穴7基	1
⑩	10	個人宅造地 第587次調査	西元町3丁目 30の一部	111.86	197.11	197.11	H17. 1. 27~H17. 3. 14 (31日間)	(歴史) 掘立柱建物1棟・ 小穴27基 (縄文) 住居1軒・小穴1基	14
⑫	10	個人宅造地 第588次調査	西元町3丁目 17-4	4.18	61.38	158.28	H17. 2. 21~H17. 2. 22 (2日間)	検出遺構なし	0
面積合計				252.74	691.19	1682.86		箱数合計	19

表4 武蔵国分寺跡 分譲住宅建設等に伴う確認調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
⑧	10・19	公園入口改修工事 第583次調査	西元町4丁目 10-47	40.19	40.00	40.00	H16. 11. 9~H16. 11. 18 (7日間)	(歴史) 土坑1基	1
⑨	19	分譲住宅建設 第584次調査	西元町4丁目 2348外	161.30	1531.40	1531.40	H16. 11. 10~H16. 11. 30 (12日間)	(歴史) 土坑20基・住居1 軒・小穴43 (土坑1基・住居1 軒は第83次に確認済) (縄文) 土坑2基	1
⑩	10・19	分譲住宅建設 第586次調査	西元町3丁目 1919-3	71.55	887.92	887.92	H16. 12. 13~H16. 12. 15 (3日間)	検出遺構なし	1
⑬	10・19	個人宅造地兼法律事務所 第589次調査	西元町3丁目 11-19	13.50	75.42	287.90	H17. 3. 22~H17. 3. 25 (4日間)	検出遺構なし	0
面積合計				286.54	2494.74	2707.22		箱数合計	3

表5 恋ヶ窪鹿寺跡 専用住宅兼共同住宅建設に伴う確認調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
③	22	専用住宅兼共同住宅 第577次調査	泉町3丁目 32-12	3.99	89.98	143.27	H16. 5. 12~H16. 5. 12 (1日間)	検出遺構なし	0
面積合計				3.99	89.98	143.27		箱数合計	0

表6 恋ヶ窪遺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
⑯	2	個人宅造地 第79次調査	西恋ヶ窪1丁 目15-34	1.00	48.75	122.34	H17. 3. 1~H17. 3. 2 (2日間)	検出遺構なし	0
⑰	2	個人宅造地 第80次調査	西恋ヶ窪1丁 目15-35	1.00	44.61	113.70	H17. 3. 1~H17. 3. 2 (2日間)	検出遺構なし	0
面積合計				2.00	93.36	236.04		箱数合計	0

表7 恋ヶ窪遺跡 位置指定道路工事等に伴う確認調査

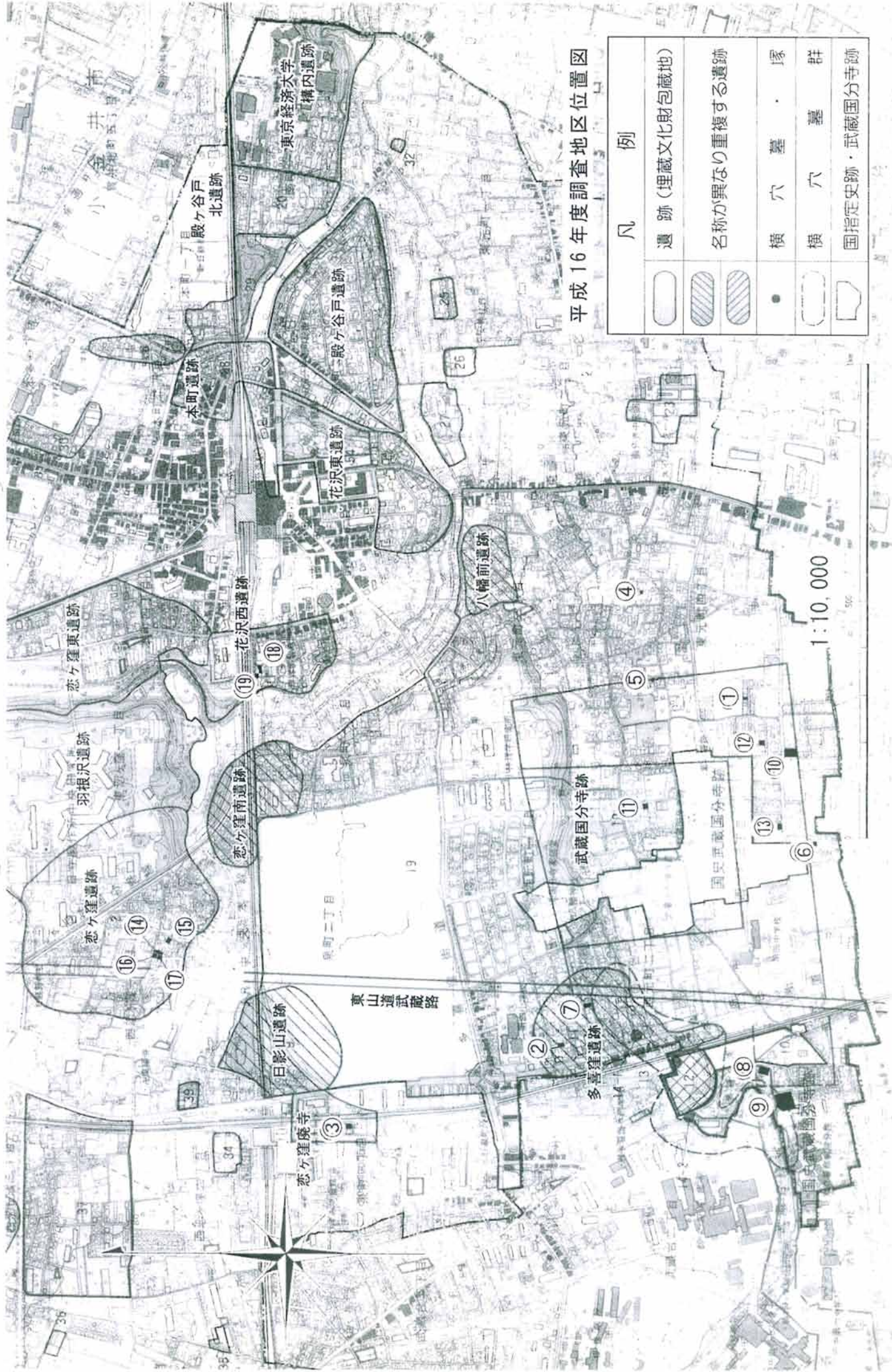
地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
⑭	2	位置指定道路 第76次調査	西恋ヶ窪1丁 目15-13・25	66.70	90.35	104.21	H16. 5. 6~H16. 5. 11 (3日間)	(縄文) 小穴3基 (歴史) 溝2条	1
⑮	2	分譲住宅建設 第78次調査	西恋ヶ窪1丁 目15-30・31	5.32	47.37	118.57	H16. 8. 10~H16. 8. 12 (3日間)	検出遺構なし	0
面積合計				72.02	137.72	222.78		箱数合計	1

表8 花沢西遺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
⑱	8	個人宅造地 第16次調査	南町3丁目 30-12	8.67	60.00	158.33	H16. 8. 10~H16. 8. 25 (11日間)	検出遺構なし	0
面積合計				8.67	60.00	158.33		箱数合計	0

表9 花沢西遺跡 位置指定道路工事に伴う確認調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
⑲	8	位置指定道路 第15次調査	南町3丁目 30-12	98.98	85.52	439.05	H16. 8. 10~H16. 8. 25 (11日間)	(縄文) 土坑1基	1
面積合計				98.98	85.52	439.05		箱数合計	1



平成 16 年度調査地区位置図

凡 例	
	遺跡 (埋蔵文化財包蔵地)
	名称が異なり重複する遺跡
	横 穴 墓 ・ 塚
	横 穴 墓 群
	国指定史跡・武蔵国分寺跡

1:10,000

## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ①第 573 次調査 個人宅造地

所在地	東元町四丁目 1945-21	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2004. 4. 7～2004. 4. 13
調査面積	9.41 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	平安時代…小穴 9 基		
出土遺物	平安時代…土師器・須恵器		

#### 調査概要

当地区は僧寺中軸線の南 205.5m、東 387m に位置し、武蔵国分寺跡寺院地南東に当たる。調査は排水管路埋設により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、本調査を行った。

歴史時代の小穴が 9 基検出された。

#### まとめ

当該調査区の周辺は遺構の検出が希薄な地域であり武蔵国分寺僧寺の寺院地の中で「苑院・花園院」が想定されている地域である。検出された小穴の配置等に規則性は認められず機能、用途は不明である。

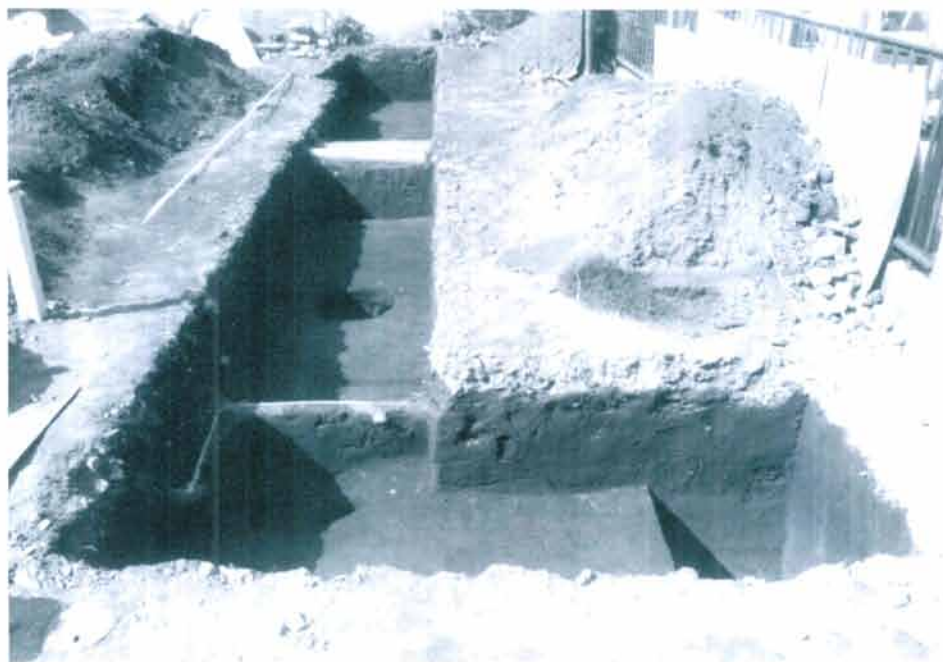
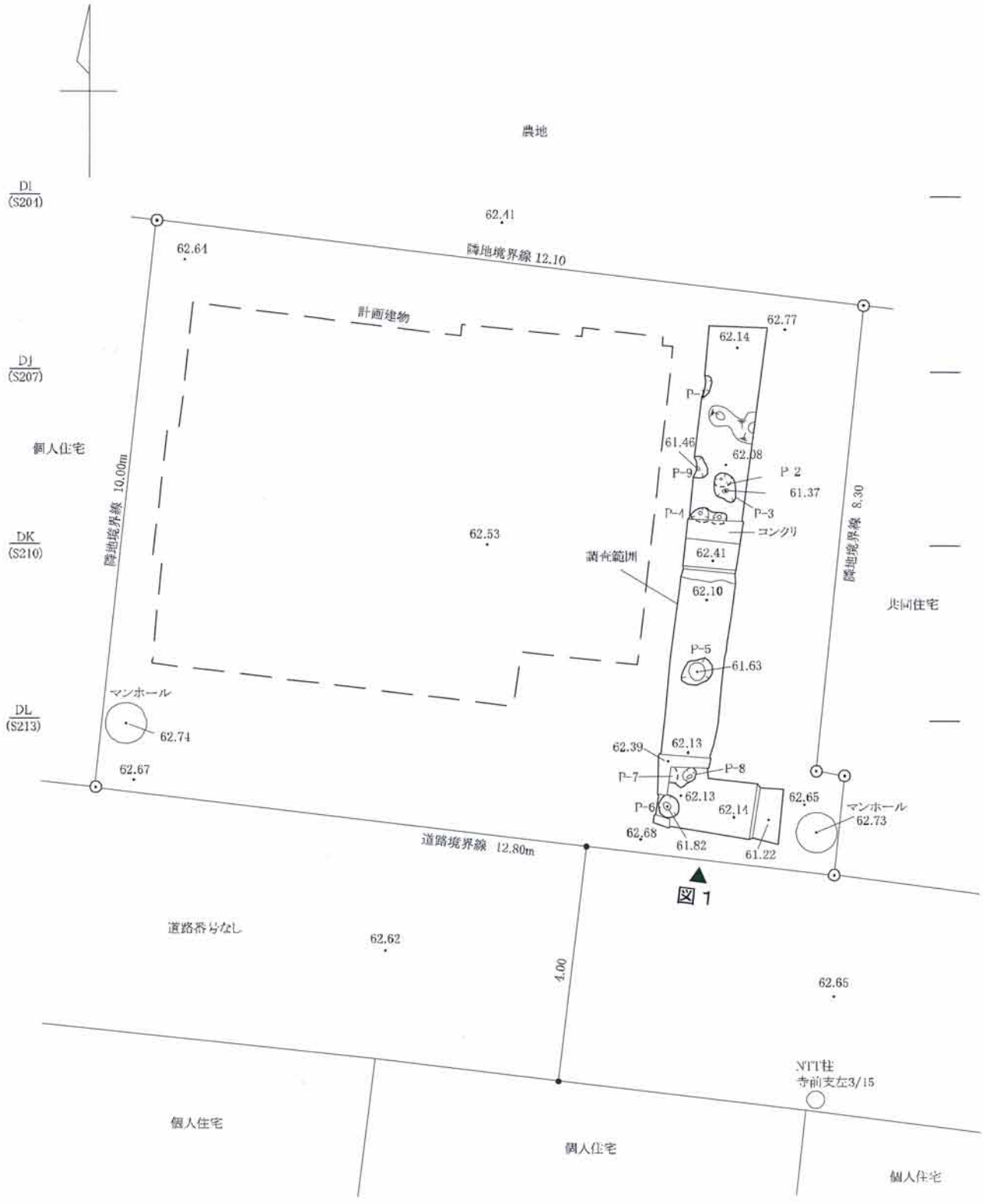


図 1 調査区全景(南から)



第573次調査区全体図

126 (E378)      127 (E381)      128 (E384)      129 (E387)      130 (E390)

## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ②第 575 次調査 個人宅造地

所在地	西元町二丁目 15-27	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2004. 5. 6～2004. 5. 12
調査面積	7.96 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	縄文時代…土坑 1 基		
出土遺物	平安時代…須恵器・女瓦 縄文時代…土器・石核・礫		

#### 調査概要

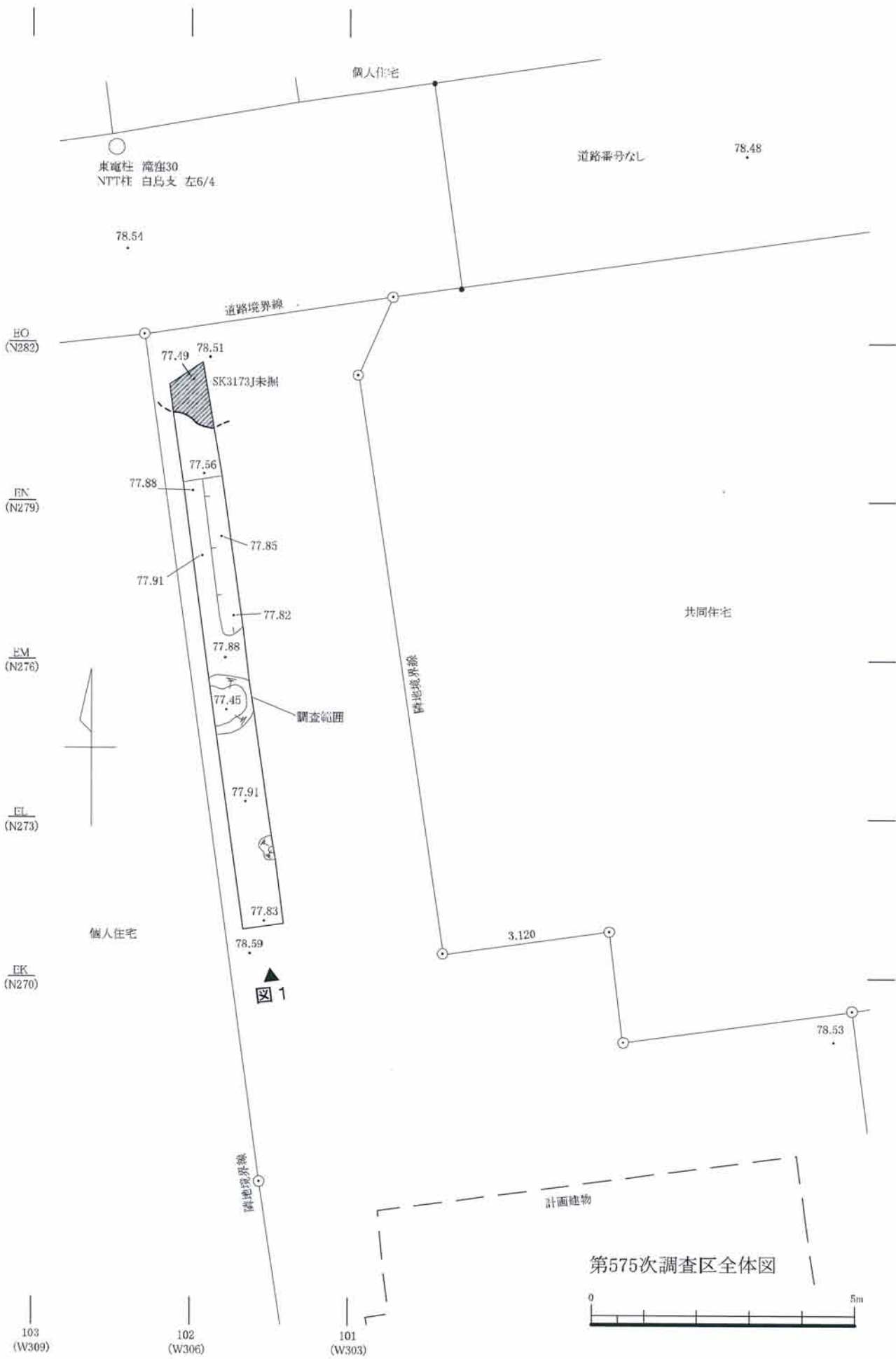
当地区は僧寺中軸線の北 276m、西 305m に位置し、武蔵野段丘面際の武蔵国分僧尼寺中間に当たる。東に東山道武蔵路が通り、多喜窪遺跡と重複する。調査は排水管理設により影響を受ける範囲を対象にトレンチを 1 箇所設定し、本調査を行った。縄文時代の土坑が 1 基および中期の土器片等が検出された。

#### まとめ

当地区は武蔵国分寺跡北方地区に当たると共に、縄文時代の多喜窪遺跡と重なっている。既往の調査成果でも勝坂期の住居が周辺から検出されており、今回検出された、縄文時代の土坑 (SK3173J) も当該地区の集落を形成する遺構群の一部と想定される。なお、遺構は調査区外に及ぶ為、全体の規模や形状は不明である。



図 1 調査区全景(南から)



第575次調査区全体図

## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ③第 577 次調査 確認調査

所在地	泉町三丁目 32-12	遺跡名	恋ヶ窪廃寺
調査原因	個人住宅兼共同住宅建設	調査期間	2004. 5. 12～2004. 5. 12
調査面積	3.99 m <sup>2</sup>	担当者	上敷領 久
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

#### 調査概要

当地区は僧寺中軸線の北 723m、西 420mに位置する。武蔵野段丘上に立地する恋ヶ窪廃寺に当たり、礎石建物跡が検出された中心部の南方に位置する。調査は排水管理設部分にトレンチを 1 箇所設定し本調査を実施した。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

#### まとめ

本調査区の北側で、昭和 51・54・56 年に調査された第 16・104・134 次調査及びその周辺の調査では、恋ヶ窪廃寺の区画施設、礎石建物跡、土坑墓・火葬墓が検出されているが、やや遺跡のはずれに当たるため当地区では遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図 1 調査区全景(東から)



個人住宅

MC  
(N726)

MB  
(N723)

MA  
(N720)

LT  
(N717)

LS  
(N714)

隣地境界線

79.67

隣地境界線

79.64

79.23

79.14

調査範囲

79.19

道路境界線

79.63

4.00

79.59

道路境界線

4.00

市道南279号線

JR  
東日本  
武蔵野線

第577次調査区全体図

個人住宅



141  
(W423)

140  
(W420)

139  
(W417)

138  
(W414)

④第 579 次調査 個人宅造地

所在地	東元町四丁目 1482・1483	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2004. 7. 12～2004. 7. 28
調査面積	85.57 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	平安時代…溝 1 条・土坑 1 基・特殊遺構 2 基 縄文時代…土坑 1 基・小穴 1 基		
出土遺物	平安時代…須恵器・土師質土器・女瓦		

調査概要

当地区は僧寺中軸線の南 23m、東 209m に位置し、立川段丘上の武蔵国分寺跡東方地域に当たる。寺院地東辺区画溝の外側に位置する。調査は計画建物工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 個、排水管埋設により影響を受ける範囲にトレンチを 4 個設定し、本調査を行った。歴史時代の溝が 1 条、土坑が 1 基、特殊遺構が 2 基、縄文時代の土坑が 1 基、小穴が 1 基検出された。

まとめ

当該地区は既往の調査では遺構の出現率が低い地域であったが、今次調査において、歴史時代の溝 1 条と縄文時代の土坑などが検出された。周辺地区は畑地が多く、大規模な住宅地開発が行われてこなかった地域でもあることから、今後の開発対応には注意を要する地域である。



図 1 A トレンチ全景(南東から)



216 (E648)  
214 (E642)  
212 (E636)  
210 (E630)  
208 (E624)  
206 (E618)  
204 (E612)

第579次調査区全体図



AG (S18)      AI (S24)      AK (S30)      AM (S36)      AO (S42)

⑤第 580 次調査 個人宅造地

所在地	東元町四丁目 1500-7	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2004. 8. 24～2004. 8. 30
調査面積	5.03 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	奈良時代・武蔵国分寺寺院地東辺区画溝		
出土遺物	歴史時代・土師器・須恵器・土師質土器・灰釉陶器・中近世陶器・男瓦・女瓦		

調査概要

当地区は僧寺中軸線の南 16m、東 436m に位置し、武蔵国分寺跡寺院地東方際に当たる。寺院地東辺区画溝の上に跨いで位置する。調査は排水管理設により影響を受ける範囲を対象にトレンチを設置し、本調査を行った。武蔵国分寺寺院地東辺区画溝 (SD62) が検出された。出土遺物は土師器、須恵器、土師質土器、灰釉陶器、男瓦・女瓦等である。

まとめ

本調査区で検出された SD62 溝は、後世の攪乱が及んでおり、上面が削平されている、現在の地表面から 0.6m で確認された。上面幅 1.9m、底面幅 0.85m、深さ 0.7m を測る。断面は逆台形を呈し、底面にはロームブロックによる人為的に埋め戻された痕跡が認められた。



図 1 調査区全景(東から)

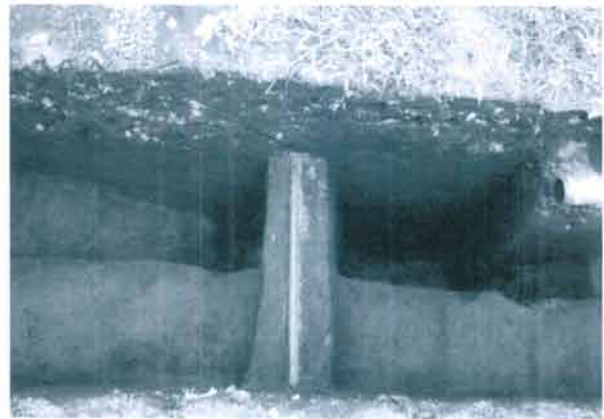


図 2 SD62 溝北壁sec.(南から)



第580次調査区全体図



144  
(E432)

145  
(E435)

146  
(E438)

147  
(E441)

148  
(E444)

平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

⑥第 581 次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 3-28	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2004. 9. 16～2004. 9. 17
調査面積	7.20 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 315m、東 55m に位置し、武蔵国分寺跡南方地域に当たる。寺院地南辺区画溝の外側際に位置する。調査は排水管理設により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

まとめ

調査区は大きく攪乱されており、遺構確認はわずかな範囲に留まった。



図 1 調査区全景(東から)



第581次調査区全体図



16 (E48)      17 (E51)      18 (E54)      19 (E57)      20 (E60)      21 (E63)

⑦第 582 次調査 個人宅造地

所在地	西元町二丁目 2548-59	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2004. 9. 30～2004. 10. 15
調査面積	21. 53 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	平安時代…小穴 9 基 縄文時代…土坑 2 基・小穴 7 基		
出土遺物	平安時代…土師器・須恵器・男瓦・女瓦 縄文時代…土器・石器・礫		

調査概要

当地区は僧寺中軸線の北 193m、西 222m に位置し、武蔵野段丘面際に当たる。東に東山道武蔵路が通り、多喜窪遺跡と重複する。調査は入り口駐車場工事と排水管理設により影響を受ける範囲を対象にトレンチを A・B 2 箇所設定し、本調査を行った。A トレンチより平安時代の小穴が 9 基、縄文時代の土坑が 2 基、小穴が 7 基検出された。包含層中より平安時代の土師器、須恵器、男瓦・女瓦が出土した。B トレンチでは遺構・遺物の検出、出土はなかった。

まとめ

平安時代の、小穴 9 基の内 P-7 には柱痕跡が認められたが、調査区内においては規則的な配列は認められず建物・柵列になるかは不明。



図 1 A トレンチ全景(南東から)





## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ⑧第 583 次調査 確認調査

所在地	西元町四丁目 10-47	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	公園施設バリアフリー化整備工事	調査期間	2004. 11. 9～2004. 11. 18
調査面積	40.19 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	平安時代…土坑 1 基		
出土遺物	平安時代…須恵器・土師質土器・中近世陶器・男瓦・女瓦 縄文時代…土器		

#### 調査の概要

当地区は武蔵国分尼寺跡寺院地北西に当たり、黒鐘公園内に位置する。調査は公園施設バリアフリー化整備工事に伴いスロープ設置により影響を受ける範囲を対象にトレンチを設置し、遺構・遺物の確認作業を行った。確認調査範囲の大部分が大きく削平されており、平安時代と考えられる土坑が 1 基検出された。

#### まとめ

時期不明であるがローム層まで削平されている。公園整備時のものと思われる盛り土が厚く堆積し、出土した須恵器、土師質土器、陶磁器、男瓦および縄文時代中期の土器片等は、盛土層中より採集された。

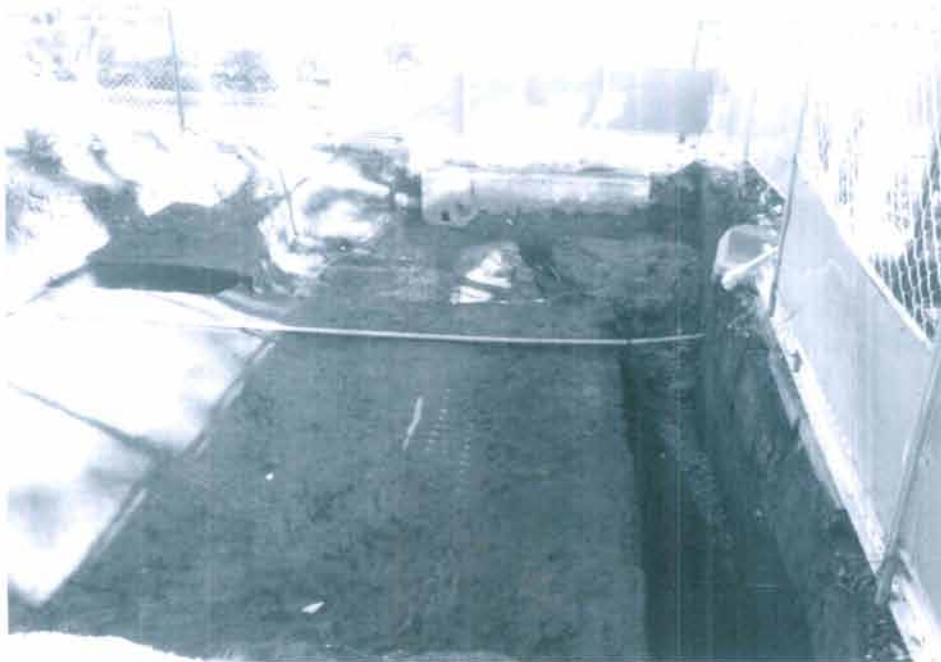


図 1 調査区全景(南西から)

CK  
(S150)



CL  
(S153)

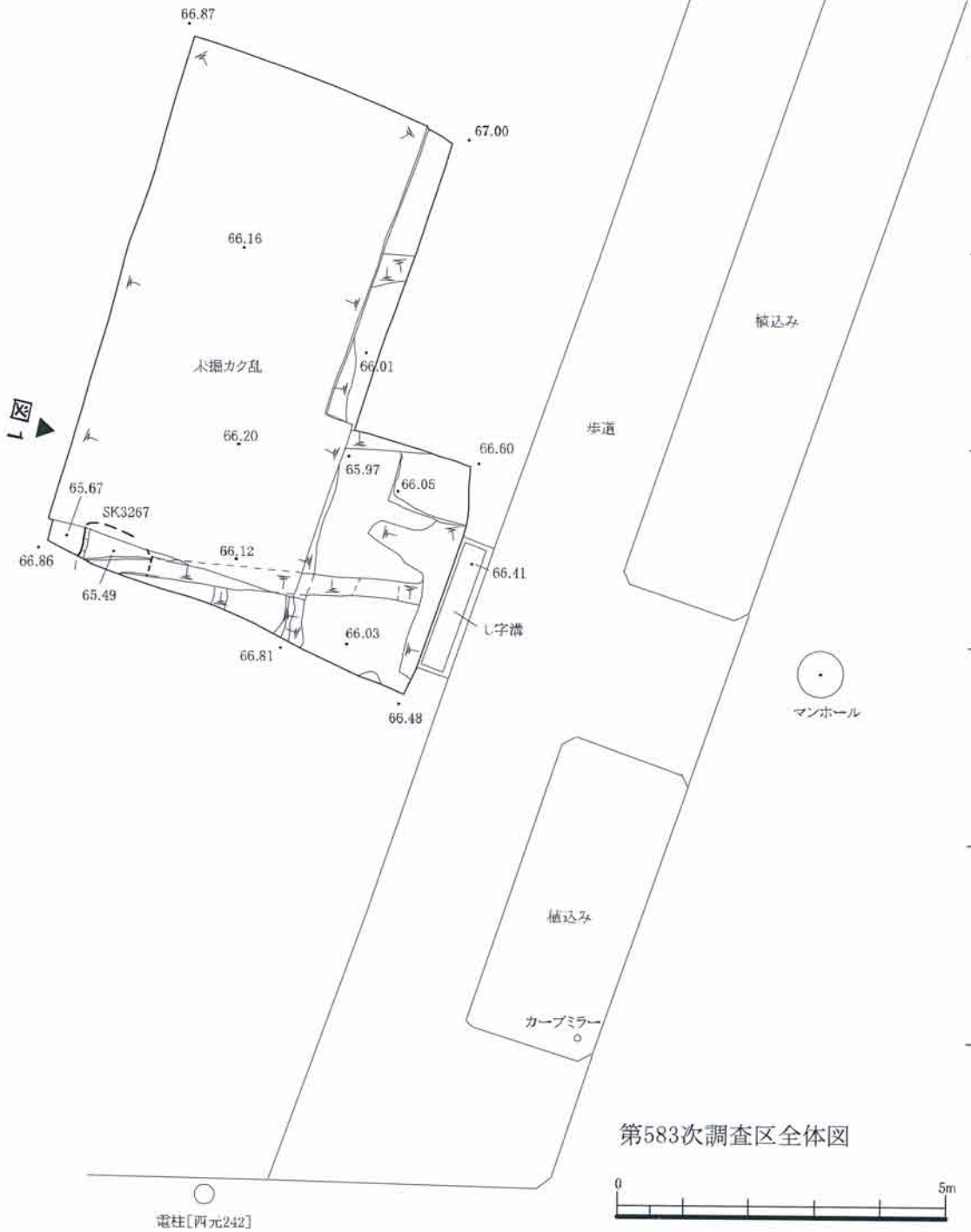
CM  
(S156)

CN  
(S159)

CO  
(S162)

CP  
(S165)

CQ  
(S168)



第583次調査区全体図

135  
(W405)

134  
(W402)

133  
(W399)

132  
(W396)

131  
(W393)

⑨第 584 次調査 確認調査

所在地	西元町四丁目 2348 外	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	武蔵国分尼寺跡北西地区確認調査	調査期間	2004. 11. 10～2004. 11. 30
調査面積	161.30 m <sup>2</sup>	担当者	上敷領 久
検出遺構	平安時代…住居 1 軒・土坑 20 基・小穴 43 基 縄文時代…土坑 2 基		
出土遺物	平安時代…土師器・須恵器・土師質土器・中近世陶器・男瓦・女瓦・鉄滓 縄文時代…土器・礫		

調査の概要

当地区は武蔵国分尼寺跡北西地域に当たる。調査は宅地造成工事により影響を受ける部分を対象として、位置指定道路敷設工事範囲にトレンチを 2 箇所、集水桝埋設工事範囲にトレンチを 1 箇所を設定し、遺構・遺物の確認作業を行った（対象地は昭和 53 年度の第 83 次調査と重複し、未調査部分について行った）。平安時代の住居が 1 軒、平安時代から中世の土坑が 20 基、小穴が 43 基、縄文時代の土坑が 2 基確認されたため、記録作業を実施した。本確認調査の成果に基づき、事業者と協議し、第 585 次調査として本調査に移行した。

まとめ

尼寺北西域には既往の調査から、平安時代から中世にかけての土坑墓群が検出されている。また当該調査区の東側には伝鎌倉街道の道路遺構が検出されており、尼寺の廃絶時期と伝鎌倉街道の敷設時期、さらに街道沿いの土地利用の実態を知る上で重要な地域である。



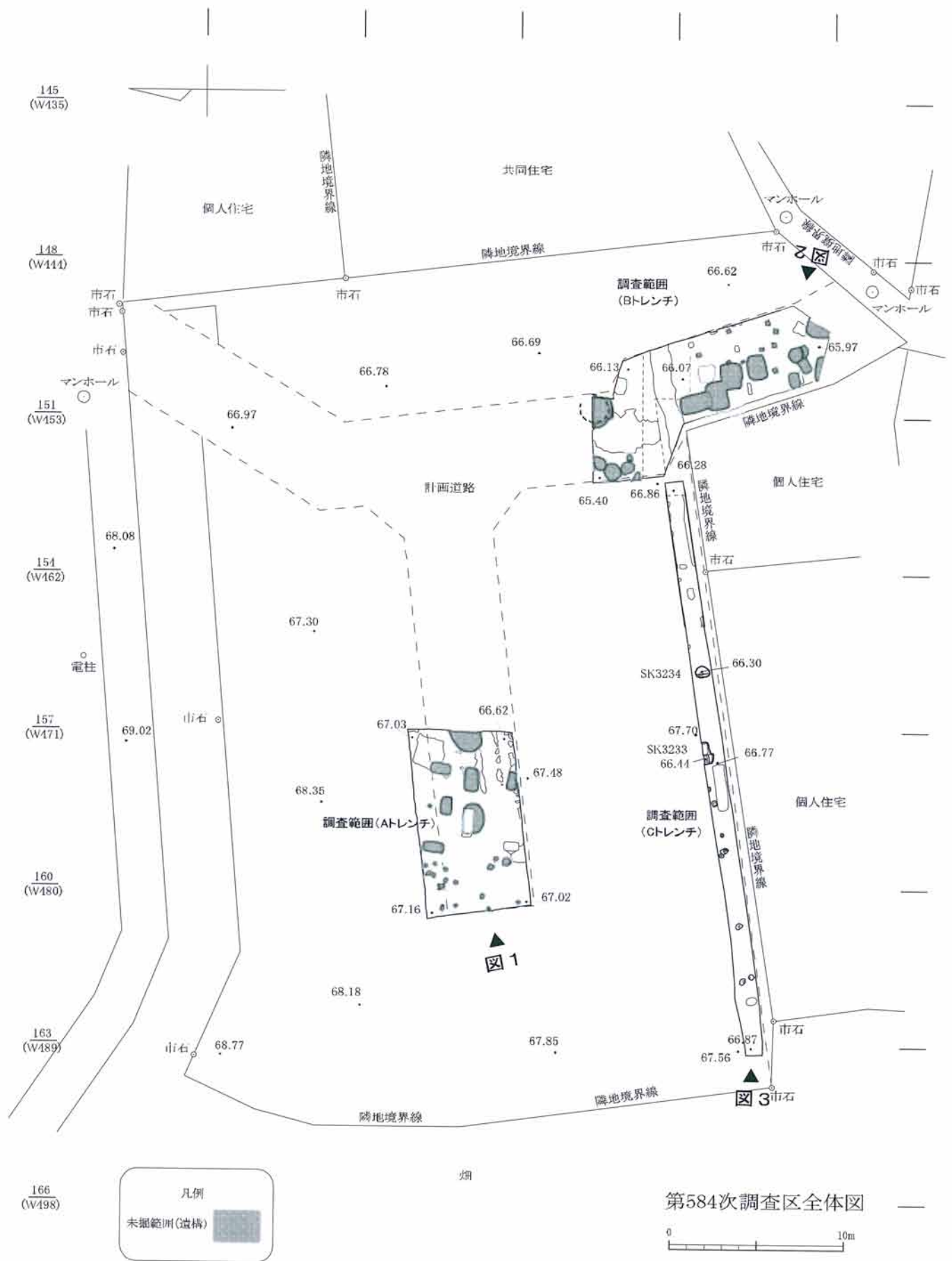
図 1 A トレンチ全景(西から)



図 2 B トレンチ全景(南東から)



図 3 C トレンチ全景(西から)



## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ⑩第 586 次調査 確認調査

所在地	西元町三丁目 1919-3	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	分譲住宅建設	調査期間	2004. 12. 13～2004. 12. 15
調査面積	71.55 m <sup>2</sup>	担当者	上敷領 久
検出遺構	なし		
出土遺物	歴史時代…女瓦		

#### 調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 285m、東 246m に位置し、武蔵国分寺跡寺院地南に当たる。寺院地南辺区画溝の内側際に位置する。調査は計画道路敷設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 4 箇所、排水管理設により影響を受ける範囲にトレンチ 1 箇所設定し、遺構・遺物の確認作業を行ったが遺構は確認されなかったため、本調査に移行しなかった。

#### まとめ

当該地区は武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に位置し、既往の調査においても遺構検出報告が比較的に少ない地域である。



図 1 調査区東側全景(南西から)



図 2 調査区西側全景(南東から)



第586次調査区全体図



EM  
(S276)

EO  
(S282)

EQ  
(S288)

ES  
(S294)

FA  
(S300)

平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

⑪第 587 次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 30 の一部	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 1. 27～2005. 3. 14
調査面積	111.86 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	平安時代…掘立柱建物 1 棟・小穴 27 基 縄文時代…柄鏡型敷石住居 1 軒・小穴 1 基		
出土遺物	平安時代…土師器・須恵器・土師質土器・灰釉陶器・青磁・中近世陶器・鏡瓦・男瓦・女瓦・埴・埴・金属製品 縄文時代…土器・石器 旧石器時代…ナイフ形石器		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北 30m、東 175m に位置し、立川段丘上で武蔵国分僧寺跡の伽藍地内の東側に当たる。太衆院・政所院に推定される地区である。調査は計画建物工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設置し、遺構・遺物の確認作業を行った。結果は、平安時代の掘立柱建物が 1 棟、小穴が 27 基、縄文時代の柄鏡型敷石住居が 1 軒、小穴が 1 基検出されたため、それらの遺構については本調査を実施して終了した。

まとめ

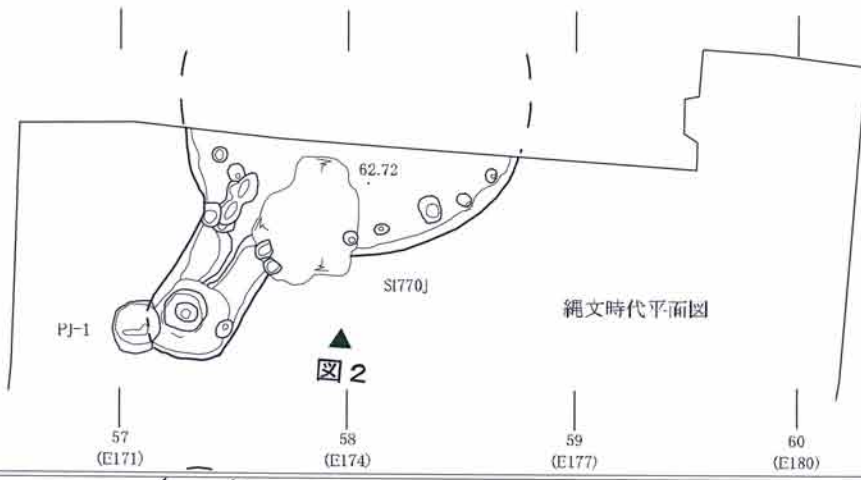
本調査区周辺からは既往の調査においても、大規模な掘立柱建物が検出されている地域である。今回検出された掘立柱建物 (SB225) は、柱穴が 8 個であり、北側は調査区外に延びる。主軸方向は桁行で N-10°-E である。東西 2 間、南北 3 間以上の南北棟で、柱間は約 2.4m である。柱穴の切り合い関係により最大で 5 時期あると考えられ、4 回建て替えられている。柱穴の規模は、ほぼ同位置で建て替えられていることからすべてにおいて判然としないが、最終時期についてみると、一辺約 1m 前後の不整楕円形ないし隅丸方形の掘り方で、深さは、約 0.8m～1m である。この時期は柱痕跡が確認され、なかには礎盤石として川原石が使用されている。遺物の大半は最終時期の埋め土から土師器、須恵器、男瓦・女瓦などが出土した。

縄文時代は柄鏡型敷石住居 1 軒 (SI770J)、小穴 1 基が検出された。SI770J 住居の円形主体部は半分以上調査区外となり、現状で南北 2.5m 以上、東西 4m 以上、深さは確認面より約 0.5m である。張り出し部は幅約 1.1m、長さ 1.8m である。床面直上から 10cm～30cm の礫が数点出土し、主体部の壁際に沿って小石が帯状に検出された。この下部からピットが壁際に沿って検出された。出土遺物は中期後半加曾利 EIV 式から後期初頭の称名寺式の深鉢形土器が主体となり、石鏃、磨石、石皿、多孔石などもある。柄鏡型敷石住居は武蔵野段丘面では報告例が多いが、立川段丘面での検出は今次調査が初めてであり、立川段丘面における該期の集落変遷を明らかにする上で貴重な資料である。

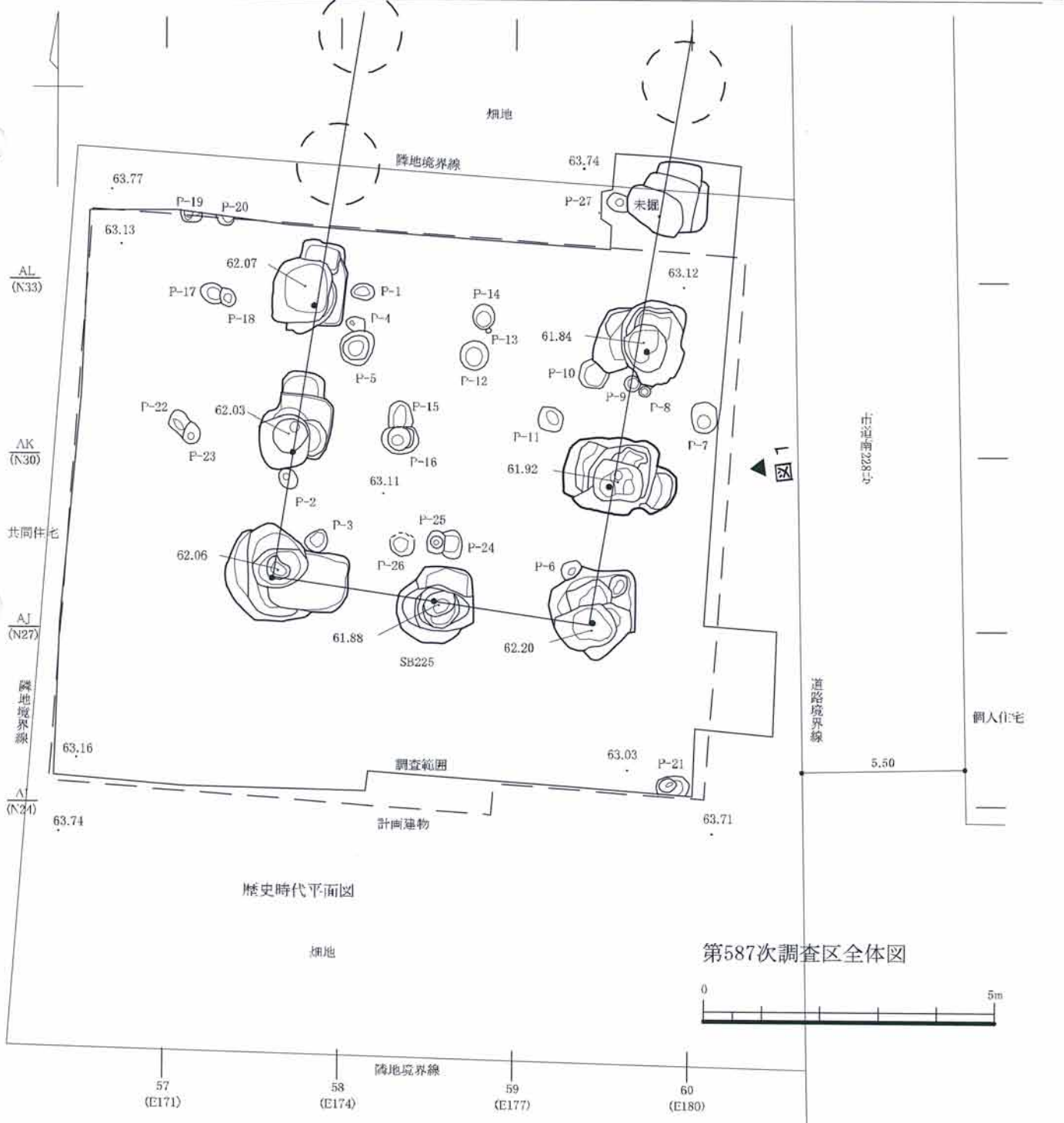
さらに SI770J 住居の覆土中よりナイフ形石器が 1 点出土しており、縄文時代のみならず旧石器時代においても立川段丘面の土地利用変遷を知る上で重要な調査となった。



AL  
(N33)



AK  
(N30)



第587次調査区全体図

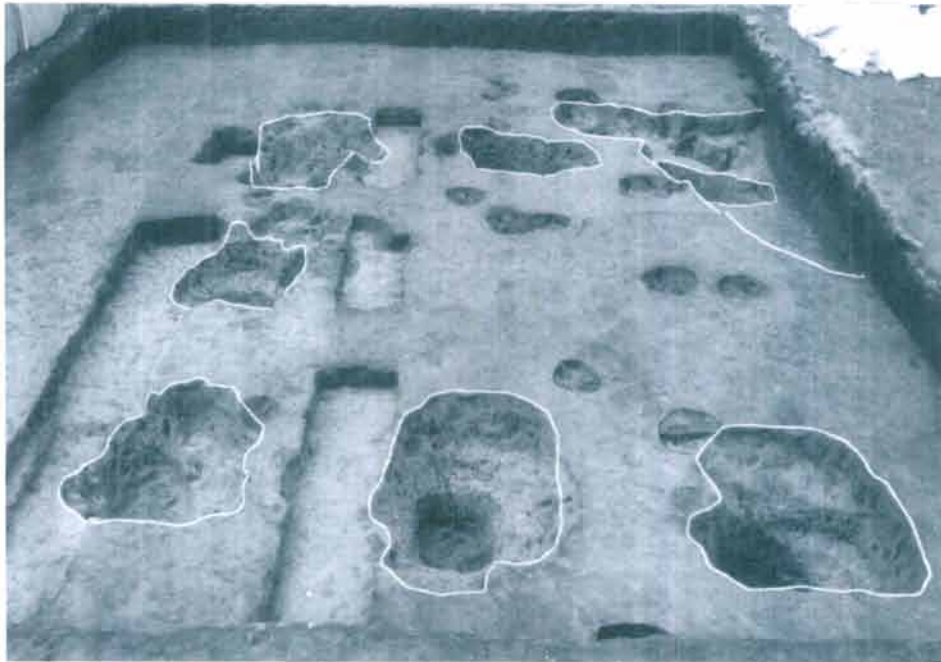


図1 調査区全景(東から)

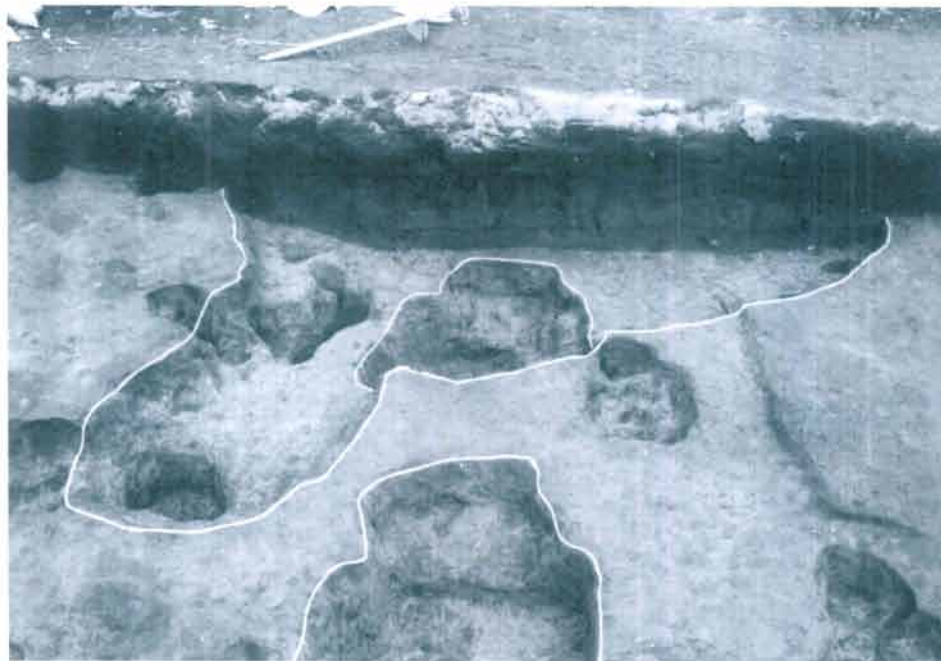


図2 SI770J 完掘全景(南から)



PK01-SB225



墨書部分



JF01-SI770J



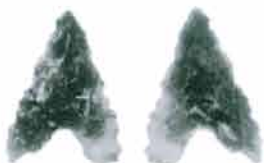
JF02-SI770J



JF04-SI770J



AB02-SI770J



AB03-SI770J



FA01-SI770J

## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ⑫第 588 次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 1931-10	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 2. 21～2005. 2. 22
調査面積	4.18 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

#### 調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 235m、東 275m に位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

#### まとめ

調査区の大部分は攪乱を受けていた。

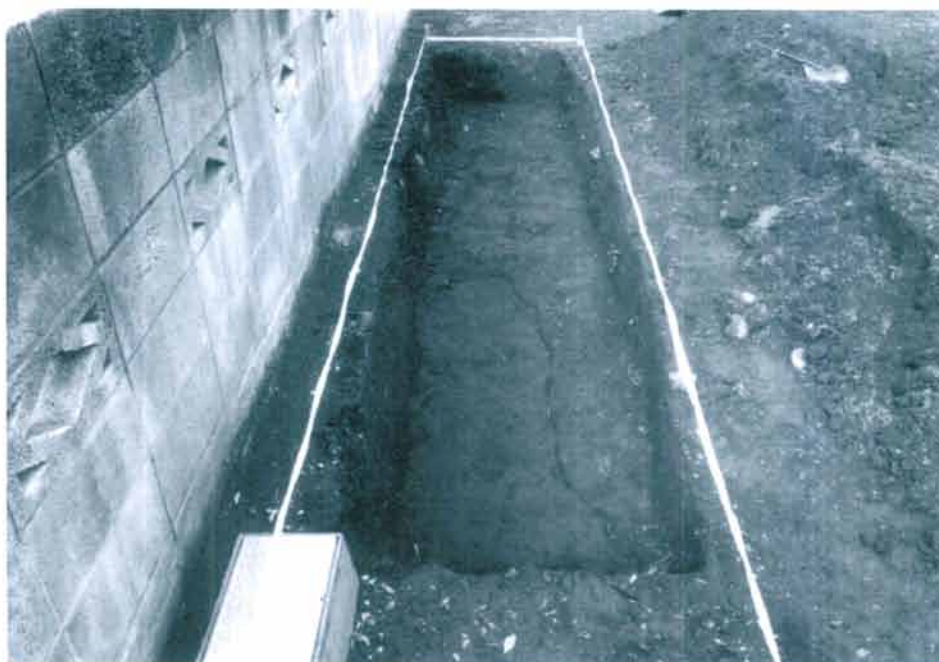


図 1 調査区全景(南から)



平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

⑬第 589 次調査 確認調査

所在地	西元町三丁目 11-19	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅兼法律事務所建設	調査期間	2005. 3. 22～2005. 3. 25
調査面積	13.50 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 250m、東 104m に位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 3 箇所設定し、遺構・遺物の確認作業を行ったが遺構・遺物の検出、出土はなかったため、本調査に移行しなかった。

まとめ

当該地区は既往の調査成果でも遺構検出報告の少ない地域である。



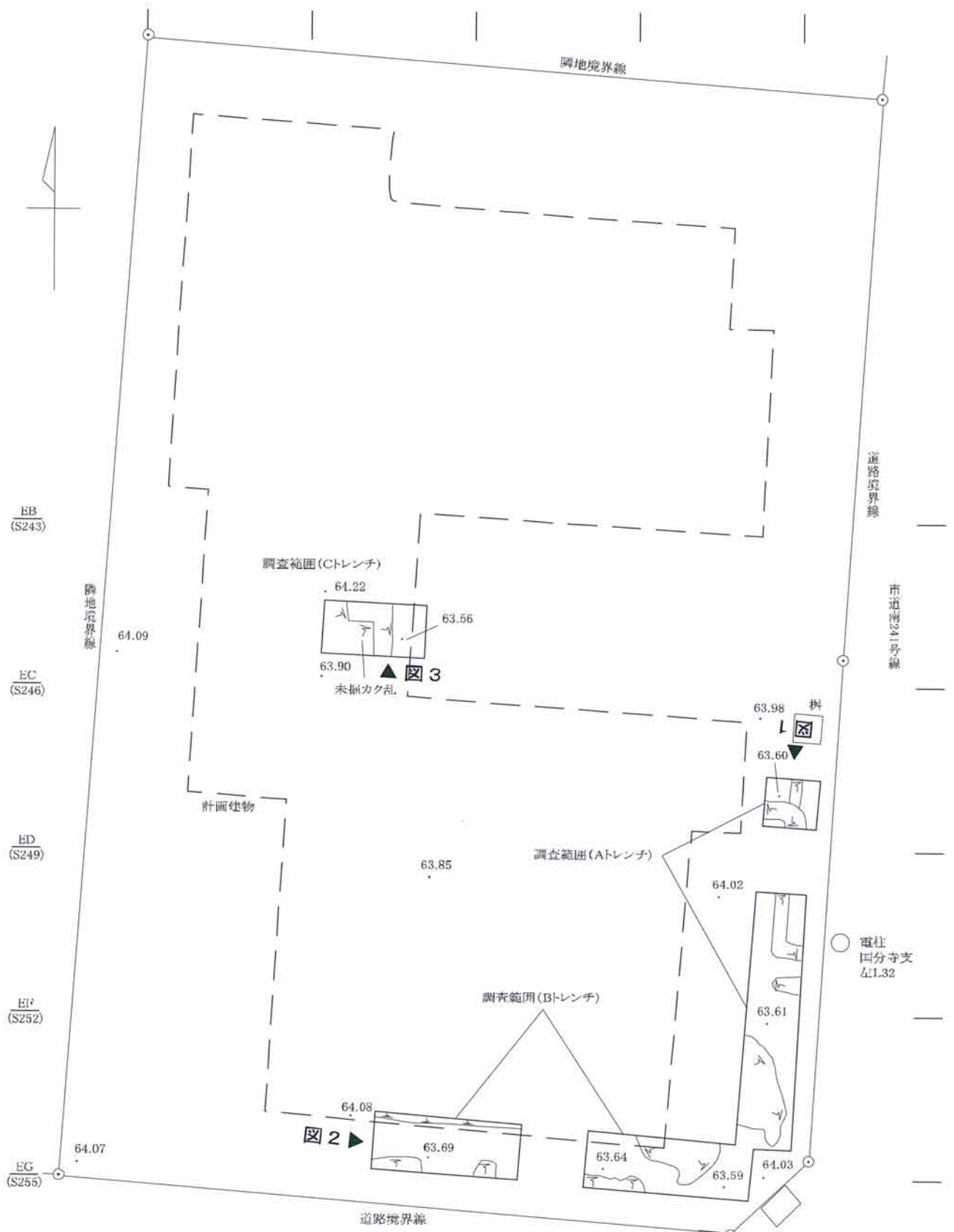
図 1 A トレンチ全景(北から)



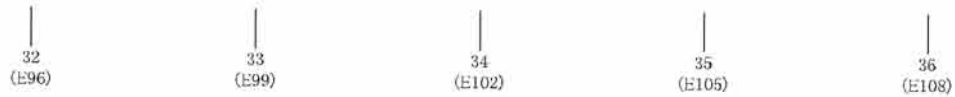
図 2 B トレンチ全景(西から)



図 3 C トレンチ全景(南から)



第589次調査区全体図



## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ⑭第 76 次調査 確認調査

所在地	西恋ヶ窪一丁目 15-13・25	遺跡名	恋ヶ窪遺跡
調査原因	位置指定道路工事	調査期間	2004. 5. 6～2004. 5. 11
調査面積	66.70 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	歴史時代…溝 2 条 縄文時代…小穴 3 基		
出土遺物	縄文時代…土器・石器		

#### 調査の概要

当地区は日本測地系の第 9 系に於いて南 33.780m、西 32.586m に位置し、恋ヶ窪遺跡に当たる。調査は道路敷設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 3 箇所設定し、遺構・遺物の確認作業を行った。歴史時代の溝 2 条（遺物が出土していないため時期の限定はできなかった）、縄文時代の小穴が 3 基検出されたため、事業者と協議し、第 77 次調査として本調査に移行した。

#### まとめ

恋ヶ窪遺跡は縄文時代中期の代表的な集落遺跡であるが、当該地区は遺跡の南側に位置し、既往の調査成果においても縄文時代の住居等の報告は少ない地域である。

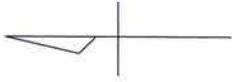


図 1 調査区全景(北から)



図 2 調査区全景(南から)



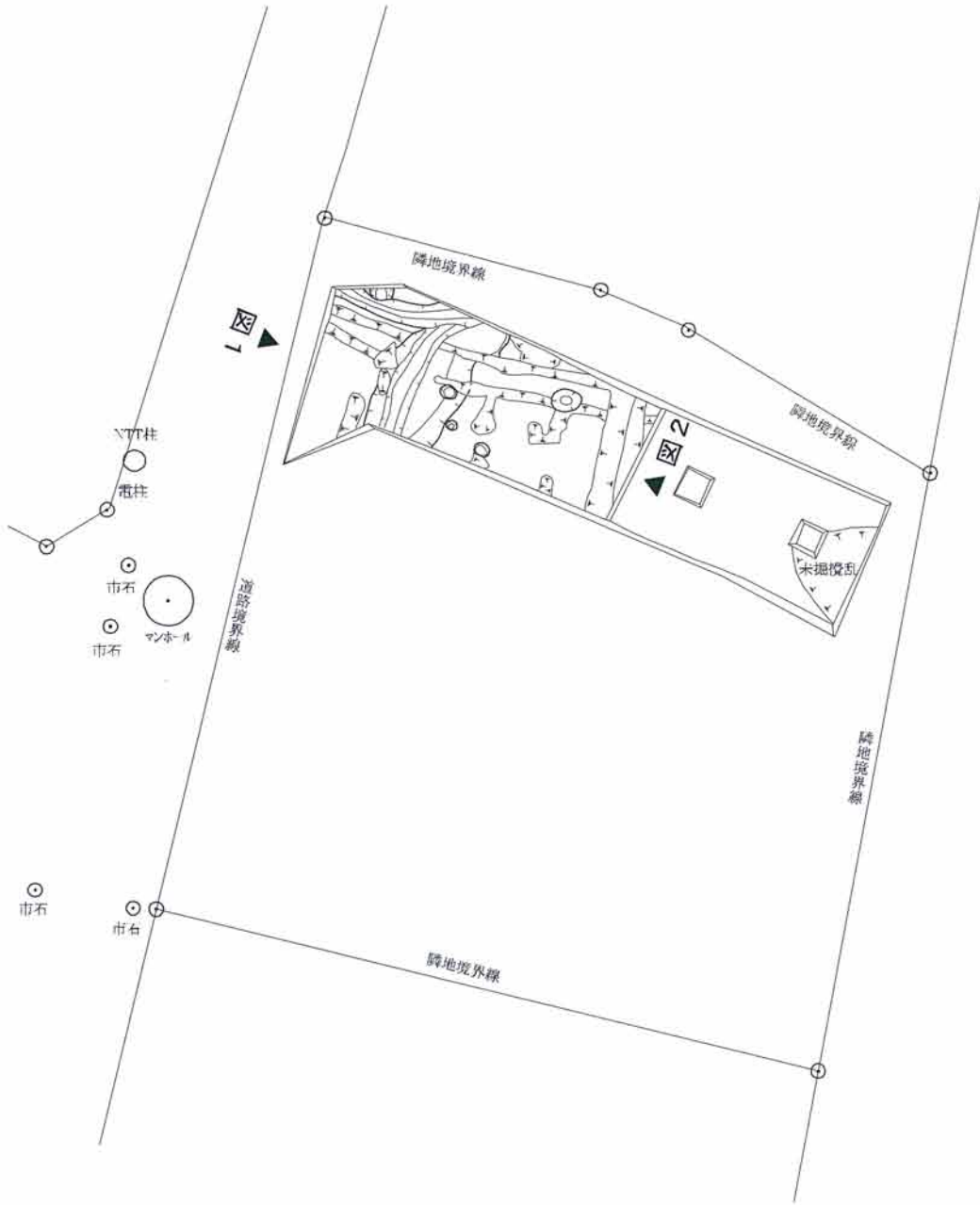


1290  
(W32580)

1295  
(W32590)

1300  
(W32600)

1305  
(W32610)



第76次調査区全体図



DI IK  
(S33370)

DI IP  
(S33380)

DI IV  
(S33390)

⑮第 78 次調査 確認調査

所在地	西恋ヶ窪一丁目 15-30・31	遺跡名	恋ヶ窪遺跡
調査原因	分譲住宅建設	調査期間	2004. 8. 10～2004. 8. 12
調査面積	5.32 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は日本測地系の第9系に於いて南 33.405m、西 32.565mに位置し、恋ヶ窪遺跡に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを1箇所、敷地南西側にトレンチを1箇所設定し、遺構・遺物の確認作業を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかったため記録作業を実施し、本調査へ移行しなかった。

まとめ

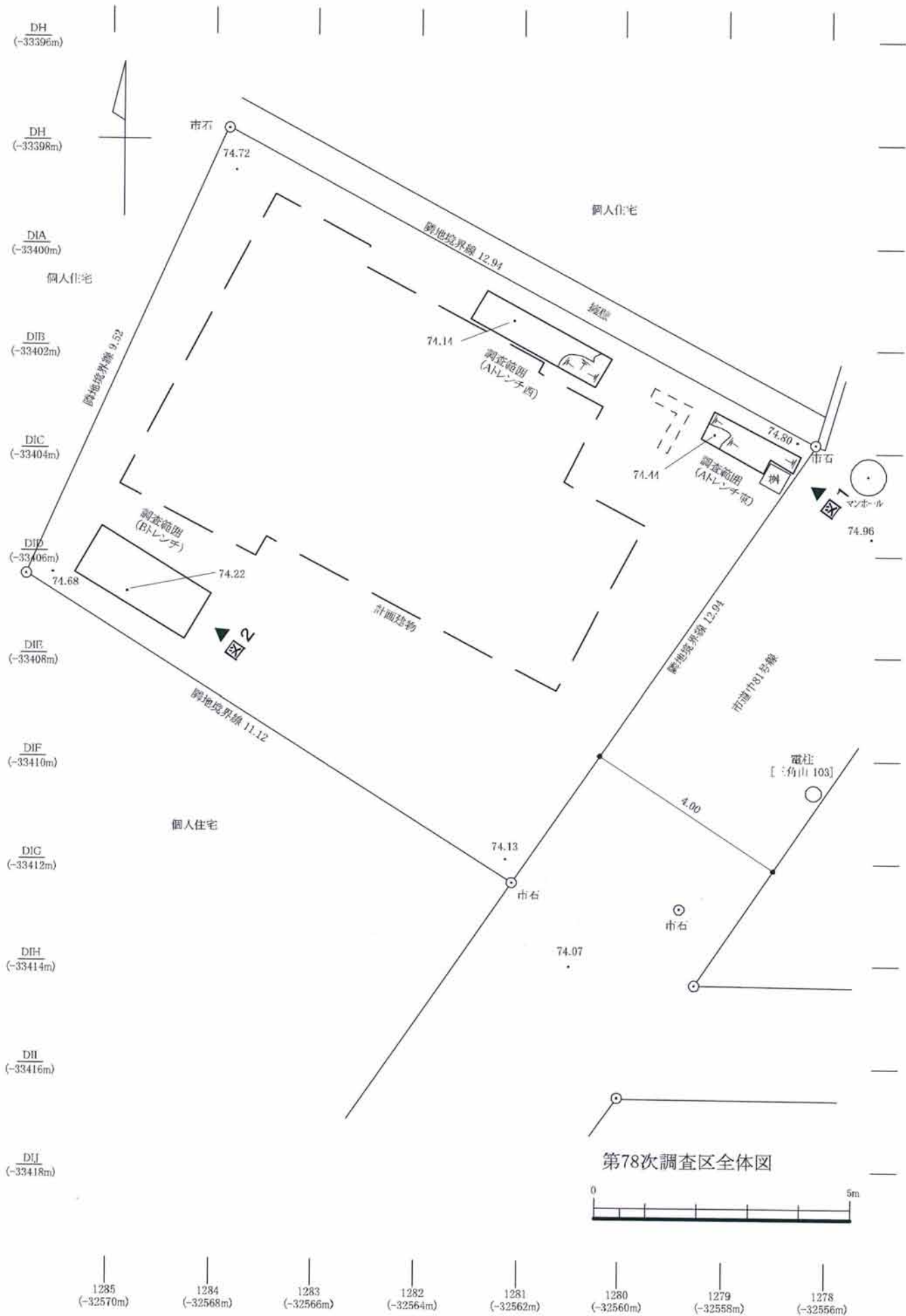
恋ヶ窪遺跡の南側傾斜地に位置し、配水管埋設部分におけるトレンチではすでに削平されており包含層は滅失していた。



図1 Aトレンチ全景(東から)



図2 Bトレンチ全景(東から)



第78次調査区全体図

## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ⑩第 79 次調査 個人宅造地

所在地	西恋ヶ窪一丁目 15-34	遺跡名	恋ヶ窪遺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 3. 1～2005. 3. 2
調査面積	1.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

#### 調査の概要

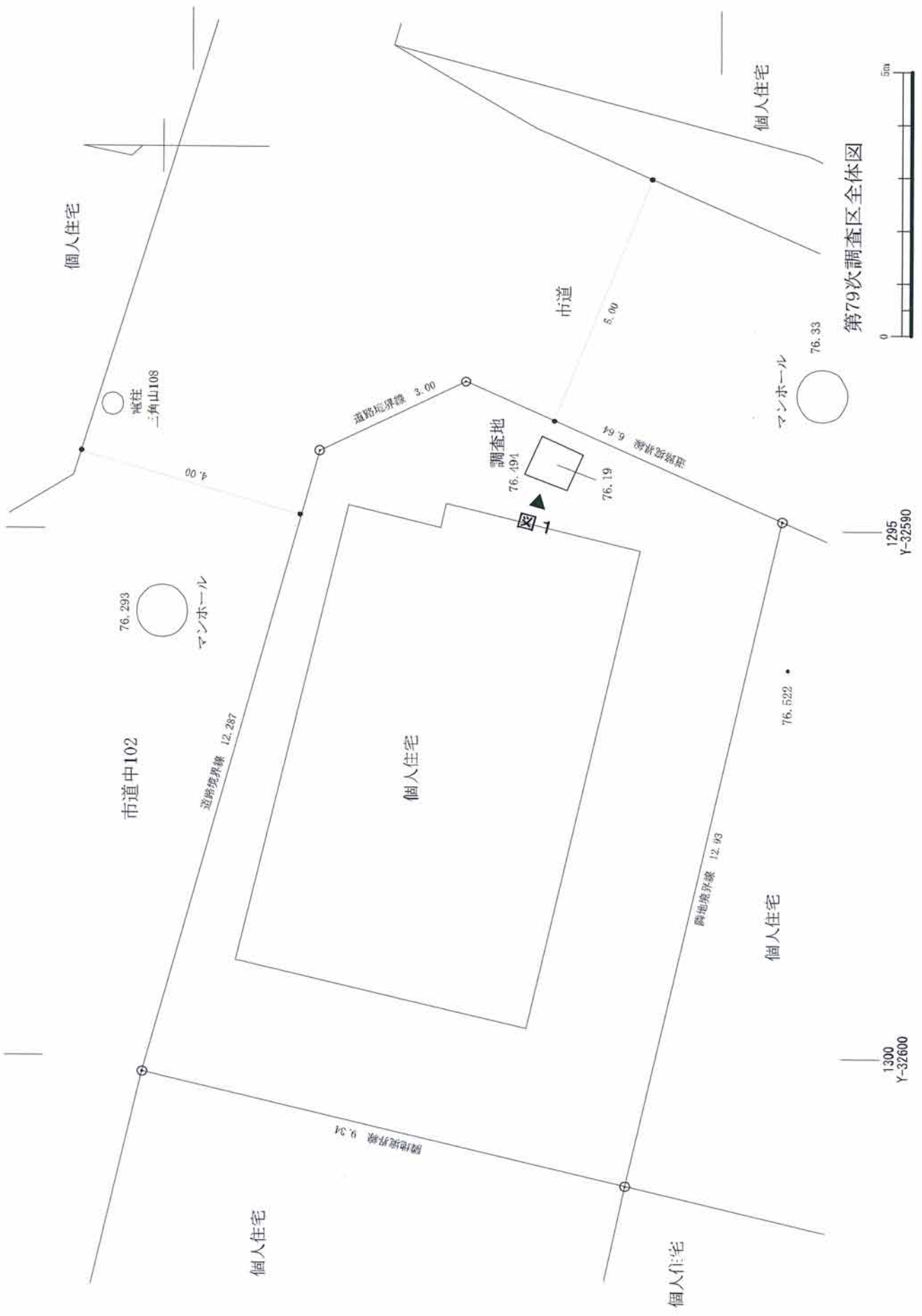
当地区は日本測地系の第9系に於いて南 33.375m、西 32.590mに位置し、恋ヶ窪遺跡に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

#### まとめ

当該地区は宅地前に駐車場として使用していたため、調査区は攪乱され、包含層は滅失していた。



図1 調査区全景(西から)



第79次調査区全体図

DHK  
X-33370

DHP  
X-33380

## 平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

### ⑰第 80 次調査 個人宅造地

所在地	西恋ヶ窪一丁目 15-35	遺跡名	恋ヶ窪遺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 3. 1～2005. 3. 2
調査面積	1.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

#### 調査の概要

当地区は日本測地系の第 9 系に於いて南 33.385m、西 32.592m に位置し、恋ヶ窪遺跡に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

#### まとめ

当該地区は宅地前に駐車場として使用していたため、調査区は攪乱され、包含層は滅失していた。

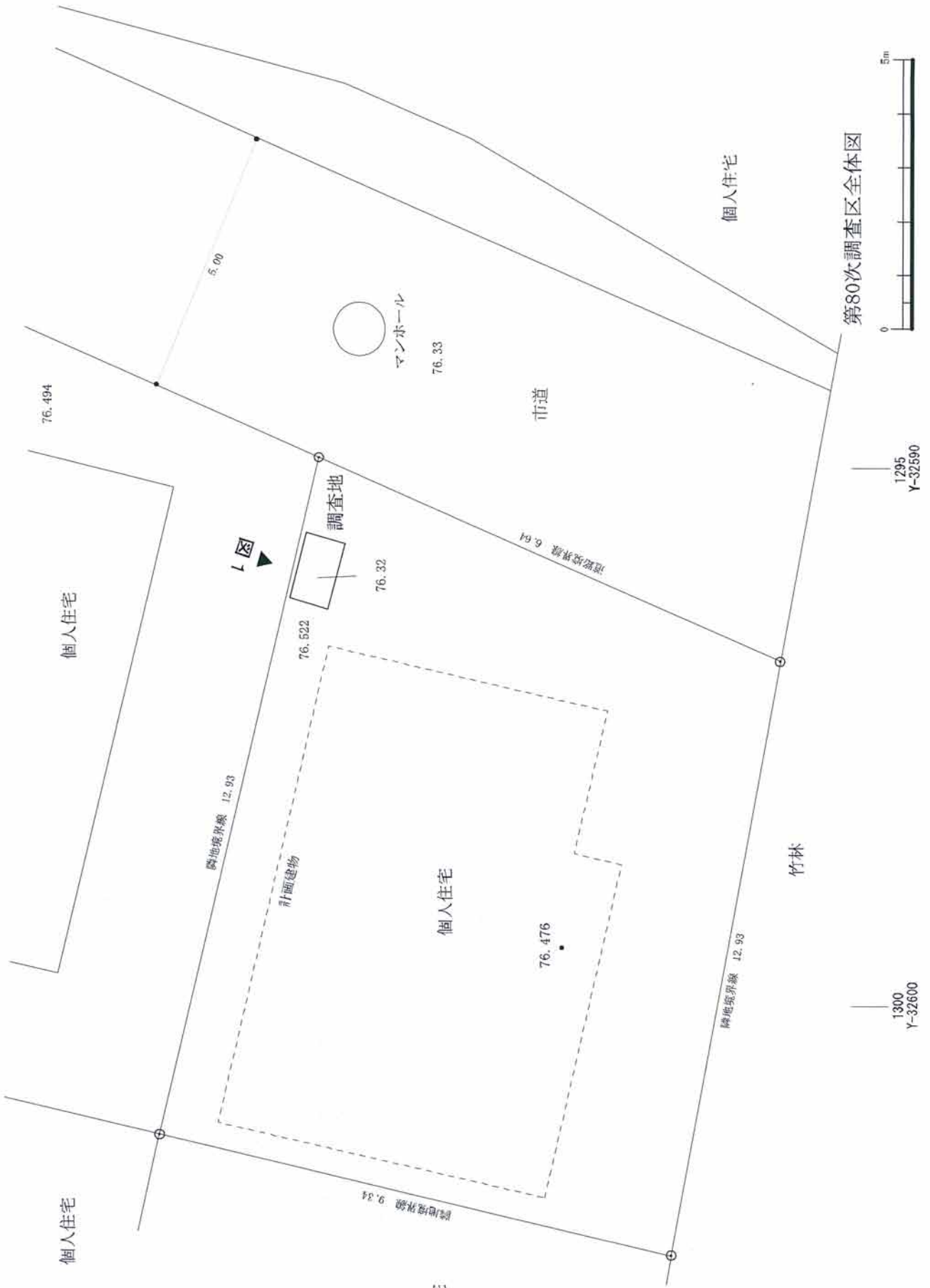


図 1 調査区全景(北から)



DHP  
X-33380

DHU  
X-33390



⑩第 15 次調査 確認調査

所在地	南町三丁目 30-12	遺跡名	花沢西遺跡
調査原因	位置指定道路工事	調査期間	2004. 8. 10～2004. 8. 25
調査面積	98.98 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	縄文時代…土坑 1 基		
出土遺物	縄文時代…土器・石器 旧石器時代…石器・礫		

調査の概要

当地区は日本測地系の第 9 系に於いて南 33.595m、西 32.000m に位置し、花沢西遺跡に当たる。調査は計画道路敷設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、確認作業を行った。縄文時代の土坑が 1 基検出された。旧石器時代は、計画道路敷設工事の範囲内にトレンチを 3 箇所設定し、検出された遺構の規模は小規模であったため遺構・遺物については記録作業を実施し、本調査へは移行しなかった。

まとめ

縄文時代の確認調査の東側で円形の土坑が検出された。遺物は炭化物と黒曜石の剥片、ホルンフェルスの剥片、打製石斧、阿玉台の土器片が出土。旧石器時代は、道路工事の範囲内に 3 箇所トレンチを設定し、下水管の埋設深度まで確認を行った。遺物はハードローム層より黒曜石の剥片と焼礫が出土したが、ユニット小礫群のようなまとまりにはならなかった。



図 1 縄文時代確認調査全景(東から)



図 2 旧石器時代確認調査全景(北西から)



図 3 旧石器時代確認調査遺物出土状況(南から)



図 4 縄文時代確認調査 SK25J 遺物出土状況(南から)



DLF  
X-33580

DLU  
X-33590

DMA  
X-33600

DMF  
X-33610

既設橋構造補修



第15次調査区全体図

平成 16 年度 各調査の概要とまとめ

⑬第 16 次調査 個人宅造地

所在地	南町三丁目 30-12	遺跡名	花沢西遺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2004. 8. 10～2004. 8. 25
調査面積	8.67 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は日本測地系の第 9 系に於て南 33.590m、西 32.008m に位置し、花沢西遺跡に当たる。調査は配水管理設工事等により影響を受ける範囲にトレンチを 2 箇所設定し、本調査を実施したが遺構・遺物の検出、出土はなかった。

まとめ

当該地区は恋ヶ窪谷の南側斜面地の際に位置するが遺跡の中心からやや外れるためであろうか、あるいは調査区が狭いためであろうか遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図 1 A トレンチ全景(西から)



図 2 B トレンチ全景(西から)



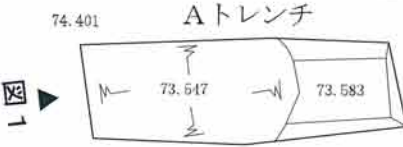
個人住宅

既設橋樑造替壁

既設橋樑造替壁

共同住宅

隣地境界線 7.63



DLR  
X-33584

計画建物

隣地境界線 9.67

DLT  
X-33588

隣地境界線 14.80

74.286

74.345

DLV  
X-33592

道路境界線 4.30

74.429

DLX  
X-33596

Bトレンチ



2.00

2.50

0.60

DMA  
X-33600

第16次調査区全体図



1007  
Y-32014

1005  
Y-32010

1003  
Y-32006

1001  
Y-32002



### 第3章 平成17年度埋蔵文化財調査の概要

#### 調査の概要

個人住宅建設に伴う調査は、武蔵国分寺跡8件、花沢西遺跡2件、殿ヶ谷戸遺跡1件の計11件である。武蔵国分寺跡は、建物基礎部分(②・⑦・⑩地区)、排水管等地下埋設管設置部分(⑤・⑥・⑨・⑪・⑫地区)を対象として、総面積187.70㎡の調査を行った。その他の市内遺跡は、花沢西遺跡で建物基礎部分を対象に2件(⑬・⑭地区)の計65.95㎡、殿ヶ谷戸遺跡で建物基礎部分と排水管等地下埋設管設置部分を対象に66.92㎡の面積を調査した(⑮地区)。

確認調査は、武蔵国分寺跡で4件、84.55㎡を行った。内3件は分譲住宅などの開発計画に伴う調査(①・③・④地区)で、1件は西元町四丁目内伝鎌倉街道の切通し部に開いた横穴壕の確認調査(⑧地区)である。

本年度は武蔵国分寺跡の調査が12件行われたが、寺院地内は3件、寺院地外は9件である。寺院地外は東方の調査が7件と多い。

以下、主な発見遺構・出土遺物のある②・⑩地区(武蔵国分寺跡)、⑭地区(花沢西遺跡)について報告する。

#### 発見遺構と出土遺物

②地区と⑩地区は隣接した調査地であり、併せて報告する。検出遺構は、住居6軒(SI771~776)、溝1条(SD68)、土坑1基、小穴17基。計86.80㎡の調査範囲としては、住居の検出頻度は高い。SI771・774・775・776住居は、確認面(Ⅲb層)からわずかに掘り下げた深さで床面が確認され、掘り込みが浅く、規模も一辺3m台がSI755のみで、他は2m台と小さい。全体を調査できた住居はないが、いずれもカマドは検出されず、SI776住居で炉が検出された。SI772・773住居は、調査部分が狭小であり全体はつかめないが、後者でカマド(北カマド)が検出された。

出土遺物は、SI771・774・775・776住居は、須恵器坏・甕、土師器甕、女瓦などが出土したが、いずれも小片である。SI772住居は、ほぼ完形の土師質土器坏と高台付埴などが出土し、衰退期(Ⅲ期)以降に比定される。SI773住居は、カマド内から土師器甕、男瓦、女瓦などが出土した。

花沢西遺跡は、⑭地区において、縄文時代の小穴9基、旧石器時代の石器集中部1箇所、礫群2箇所を検出した。旧石器時代の出土遺物は、石器45点(ナイフ形石器6点、石核1点、剥片31点、碎片7点)、礫55点、総点数100点が出土した。

#### まとめ

武蔵国分寺跡は、寺院地外の東方での7件の調査があったが、②・⑩地区でみる検出状況に比べ、これ以東の調査区で目立った遺構は検出されなかった。寺院地外の東方地域は、北方の集落の様相が明らかになってきたのに比べて、小規模な調査で調査数も少なく、集落の変遷や広がり、そしてその性格付けなど、検討課題が多い。調査事例の増加を待たねばならないが、本年度の当地域の調査による遺構検出の傾向は、今後の良い検討材料となる。①地区の確認調査(本調査実施)では、大型の掘立柱建物跡の柱穴が3基確認されるなど、①地区南側の市立第四中学校地内調査で確認された付属院との関連が窺える。

花沢西遺跡の⑭地区で主体的に確認された石器群は砂川期(花沢西遺跡第18次調査、第Ⅱ文化層)にあたる。

## 平成17年度調査地区一覽

表10 武蔵国分寺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
②	19	個人宅造地 第593次調査	東元町4丁目 1796-2・3	26.60	58.10	100.28	H17. 6. 8 ~ H17. 7. 13 (21日間)	(歴史) 住居4軒・土坑1基・ 小穴9基 (縄文) 小穴1基	2
⑤	19	個人宅造地 第596次調査	東元町3丁目 5-12	12.00	92.07	293.98	H17. 9. 7 ~ H17. 9. 12 (4日間)	(歴史) 小穴4基	0
⑥	19	個人宅造地 第597次調査	東元町3丁目 3-5	4.46	208.68	186.08	H17. 10. 19~H17. 10. 20 (2日間)	検出遺構なし	0
⑦	19	個人宅造地 第598次調査	泉町1丁目 5	72.20	208.68	432.41	H17. 10. 5~H17. 10. 26 (23日間)	(歴史) 特殊遺構1基 (縄文) 小穴5基	1
⑨	10	個人宅造地 第600次調査	西元町3丁目 16-5	1.54	63.96	145.78	H17. 11. 28~H17. 11. 30 (3日間)	検出遺構なし	0
⑩	19	個人宅造地 第601次調査	東元町4丁目 1796-2・3・4	60.20	62.48	137.46	H17. 12. 15~H18. 1. 18 (17日間)	(歴史) 住居3軒・溝1条・ 小穴8基 (縄文) 小穴1基	1
⑪	19	個人宅造地 第602次調査	東元町3丁目 1440-3	3.20	95.20	239.42	H17. 12. 20~H17. 12. 21 (2日間)	検出遺構なし	0
⑫	19	個人宅造地 第604次調査	東元町3丁目 1404-2	7.50	126.42	287.10	H18. 2. 9~H18. 2. 14 (4日間)	検出遺構なし	0
面積合計				187.70	915.59	1822.51		箱数合計	4

表11 武蔵国分寺跡 横穴壕確認調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
⑧	10・19	横穴壕確認調査 第599次調査	西元町4丁目 1地内	4.05	4.05	4.05	H17. 11. 15~H17. 11. 18 (4日間)	太平洋戦争当時の防空壕	1
面積合計				4.05	4.05	4.05		箱数合計	1

表12 武蔵国分寺跡 分譲住宅等宅建設に伴う確認調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
①	10	住宅施設建設 第591次調査	西元町2丁目 2240-1・3	21.00	246.24	512.99	H17. 5. 19~H17. 6. 1 (4日間)	(歴史) 柱穴3基・土坑2基、 硬質面2箇所	1
③	10	分譲住宅建設 第594次調査	東元町3丁目 19-36	51.80	702.02	702.02	H17. 7. 13~H17. 7. 15 (3日間)	検出遺構なし	1
④	19	分譲住宅建設 第595次調査	東元町4丁目 1484・1485-1	7.70	65.11	195.01	H17. 8. 2~H17. 8. 3 (2日間)	検出遺構なし	1
面積合計				80.50	1013.37	1410.02		箱数合計	3

表13 花沢西遺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
⑬	8	個人宅造地 第17次調査	本町4丁目 3-13	2.80	98.95	100.00	H17. 6. 14~H17. 6. 17 (2日間)	検出遺構なし	0
⑭	8	個人宅造地 第19次調査	南町3丁目 2799-20	63.15	84.03	108.66	H17. 12. 1~H17. 12. 26 (16日間)	(縄文) 小穴9基 (旧石器) 石器集中地点1箇所・ 炭群2箇所	2
面積合計				65.95	182.98	208.66		箱数合計	2

表14 殿ヶ谷戸遺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
⑮	21	個人宅造地 第4次調査	南町2丁目 10-23	66.92	124.26	196.00	H17. 5. 9~H17. 6. 2 (19日間)	(歴史) 小穴1基 (縄文) 小穴19基	1
面積合計				66.92	124.26	196.00		箱数合計	1



平成 17 年度調査地区位置図

凡 例	
	遺 跡 (埋蔵文化財包蔵地)
	名称が異なり重複する遺跡
	横 穴 墓 ・ 塚
	横 穴 墓 群
	国指定史跡・武蔵国分寺跡

1:10,000

50

①第 591 次調査 確認調査

所在地	西元町二丁目 2240-1・3	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	住宅施設建設	調査期間	2005. 5. 19～2005. 6. 1
調査面積	21.00 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	歴史時代・柱穴 3 基・土坑 2 基・硬質面 2 箇所		
出土遺物	歴史時代・土師器・須恵器・土師質土器・灰釉陶器・中近世陶器・男瓦・女瓦・鉄滓・金属製品		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 120m、西 231mに位置し、武蔵国分寺跡僧尼寺中間地点に当たり、東山道武蔵路の東側際に位置する。調査は排水管理設により影響を受ける範囲にトレンチを 2 箇所設定し、遺構・遺物の確認作業を行った。結果は、歴史時代の遺構が検出された。それらの遺構について記録作業を実施し、本調査に移行した。

まとめ

本調査区は武蔵国分寺跡僧尼寺中間地点に位置し、第四中学校の北側に当たることから住居、建物が密集している地域である。確認調査においても柱穴・硬質面等が確認され、当該地区の遺構群の多さを査証した。



図1 A トレンチ全景 (西から)



図2 B トレンチ全景 (北から)





第591次調査区全体図

②第 593 次調査 個人宅造地

所在地	東元町四丁目 1796-2・3	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 6. 8~2005. 7. 13
調査面積	26.60 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	平安時代…住居 4 軒・土坑 1 基・小穴 9 基 縄文時代…小穴 1 基		
出土遺物	平安時代…土師器・須恵器・土師質土器・男瓦・女瓦・埴 縄文時代…土器・礫・種子		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 76m、東 530.5m に位置し、武蔵国分寺跡東方地域に当たる。調査は計画建物工事により影響を受ける範囲にトレンチを 5 箇所設定した。平安時代の住居が 4 軒、土坑が 1 基、小穴 9 基、縄文時代の小穴 1 基が検出された。

まとめ

武蔵国分僧寺跡寺院地東に位置する。従来遺構の検出が希薄な地域と考えられていたが、本調査で住居が 4 軒 (SI771・772・773・774) 検出され遺構密度が比較的高いことが明らかになった。



図 1 北トレンチ全景 (東から)



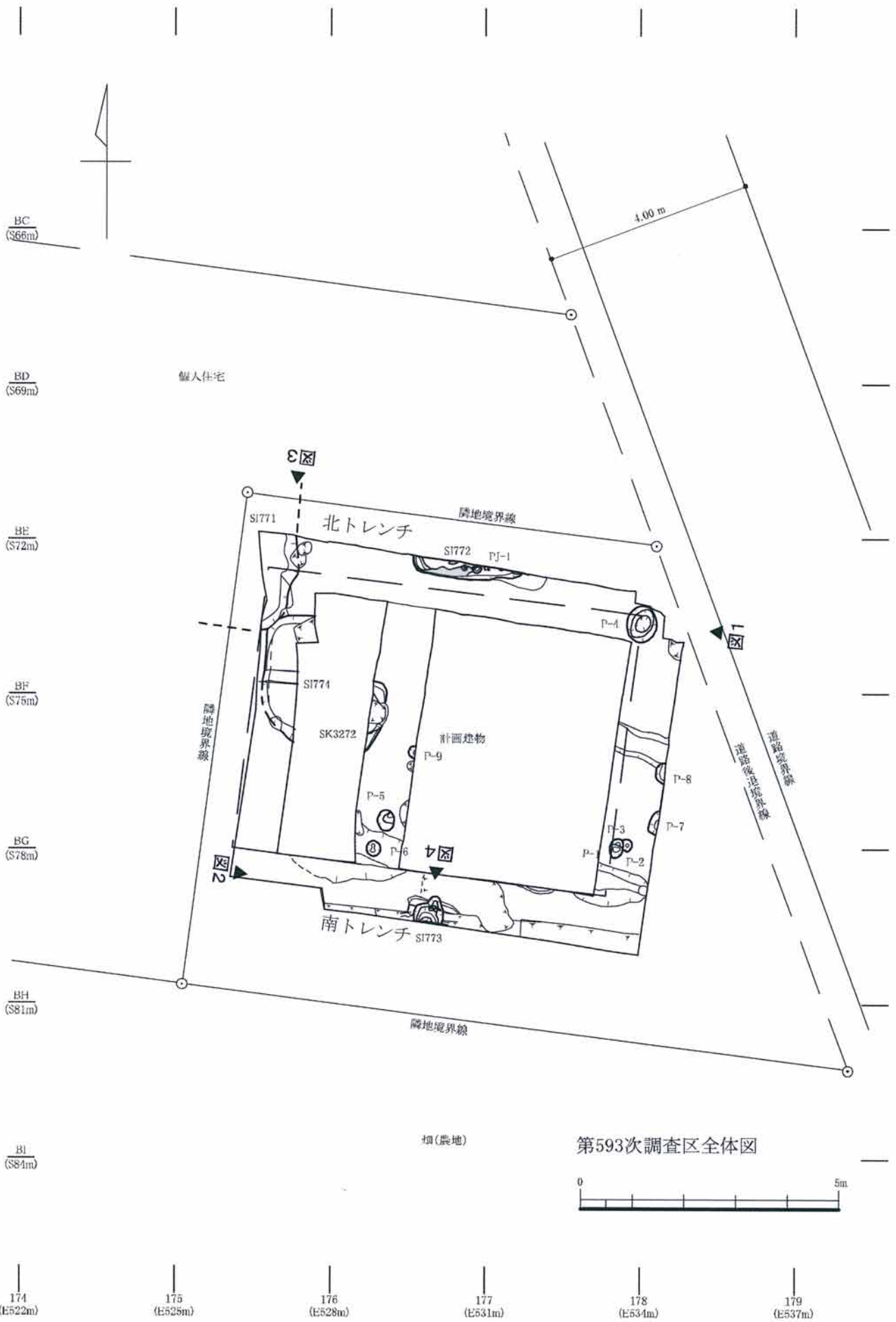
図 2 南トレンチ全景 (西から)



図 3 SI771・774 全景 (北から)



図 4 SI773 全景 (北から)



③第 594 次調査 確認調査

所在地	東元町三丁目 19-36	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	分譲住宅建設	調査期間	2005. 7. 13～2005. 7. 15
調査面積	51.80 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	なし		
出土遺物	平安時代の古銭		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北 138m、東 402.5m に位置し、武蔵国分寺跡寺院地北東に当たる。調査は計画道路敷設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、遺構・遺物の確認作業を行った。遺構は確認されなかったため、記録作業を実施して終了した。

まとめ

当該地区は国分寺崖線の際にあたるが、ローム面まで大きく削平された上に厚い盛土によって造成されており遺構は確認されなかった。覆土中より平安時代と考えられる古銭が出土したが、銘が意図的にすり消されていた。



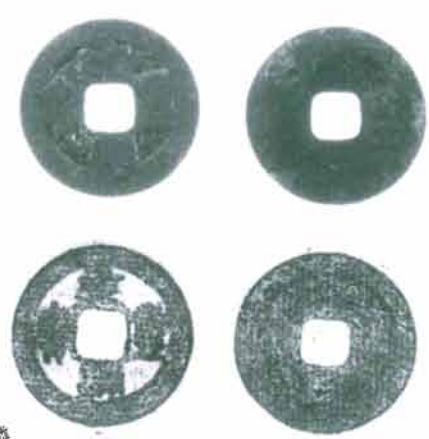
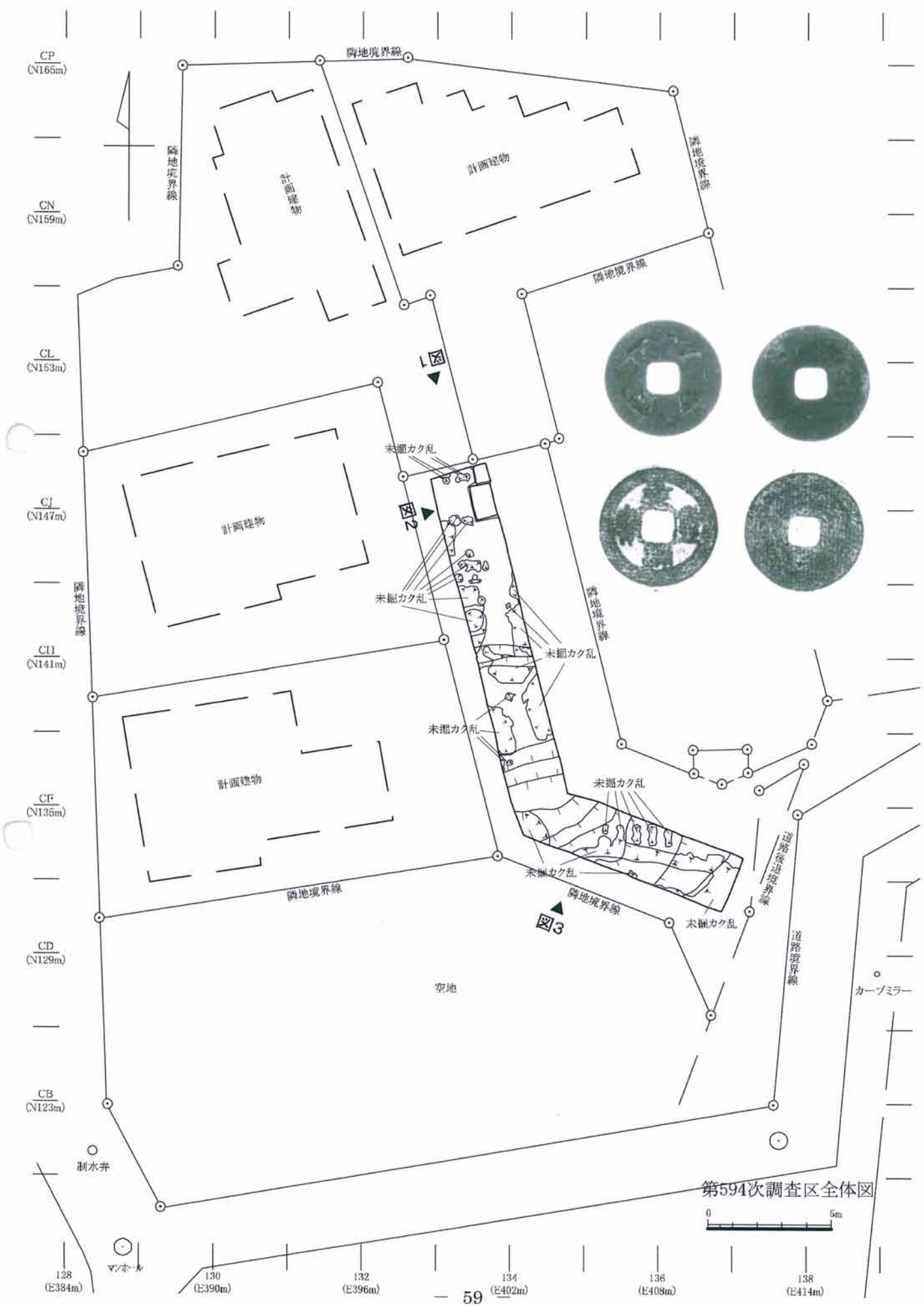
図 1 調査区全景 (北から)



図 2 調査区東壁 sec. (西から)



図 3 調査区南側全景 (南西から)



第594次調査区全体図

④第 595 次調査 確認調査

所在地	東元町四丁目 1484・1485-1	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	分譲住宅建設	調査期間	2005. 8. 2～2005. 8. 3
調査面積	7.70 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	なし		
出土遺物	縄文時代…土器・礫		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 49m、東 640.5m に位置し、武蔵国分寺跡東方地域に当たる。立川段丘上に立地し、武蔵国分僧寺跡寺院地の東側に位置する。調査は排水管理設工事に影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、確認作業を行った。遺構は確認されなかったため、記録作業を実施して終了した。

まとめ

本調査区は武蔵国分僧寺跡寺院地の東側に位置する。既往の周辺地区の調査でも住居等の検出報告は少なく、集落の東側限界にあたりと考えられる。



図 1 調査区全景 (西から)

AO  
(S42m)

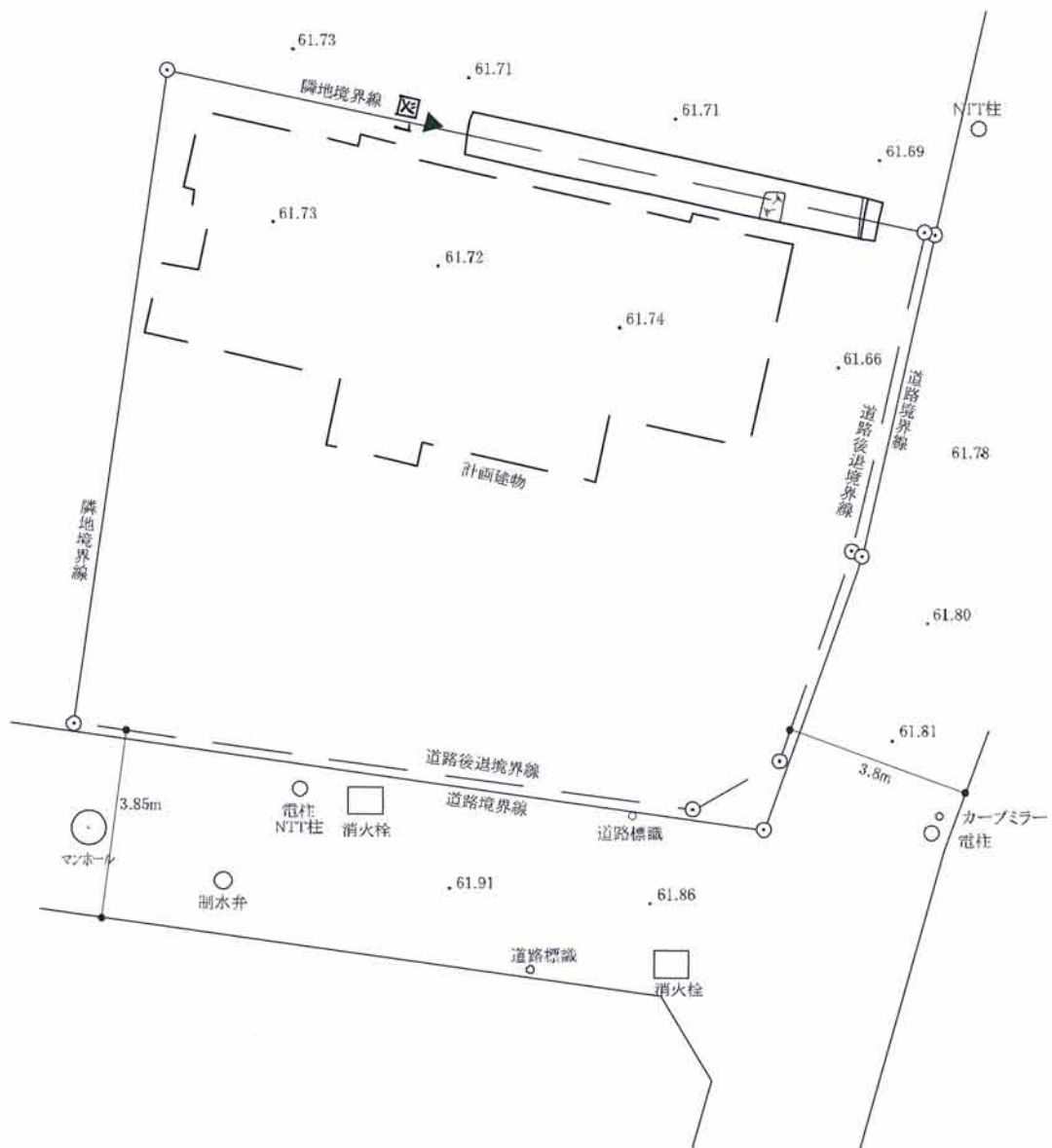
AQ  
(S48m)

AS  
(S54m)

BA  
(S60m)

BC  
(S66m)

BE  
(S72m)



第595次調査区全体図



⑤第 596 次調査 個人宅造地

所在地	東元町三丁目 5-12	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 9. 7～2005. 9. 12
調査面積	12.00 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	時期不明…小穴 4 基		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北 150m、東 651m に位置し、武蔵国分寺跡東方地域に当たる。調査は排水管理設により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、本調査を実施した。時期不明の小穴が 4 基検出された。

まとめ

本調査区は、削平がローム面までおよび、包含層は滅失しており、年代を判別する土器が出土していないため、検出された小穴の時期や機能については不明である。

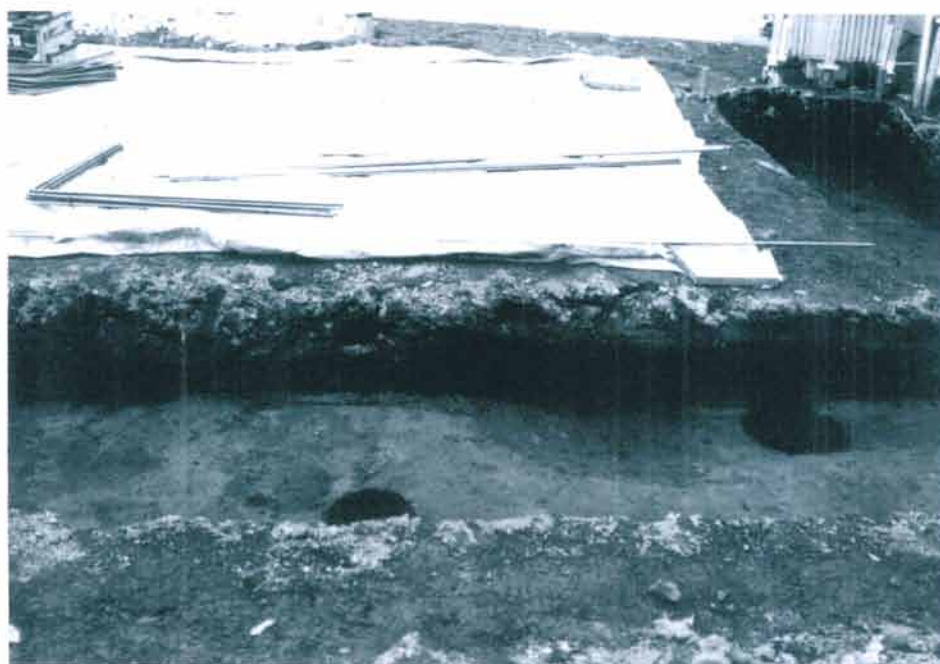


図 1 調査区全景 (南から)



CO  
(N162m)

市石  
(N156m)  
マンホール  
61.16

CK  
(N150m)

マンホール  
60.68

CI  
(N144m)

CG  
(N138m)

CE  
(N132m)

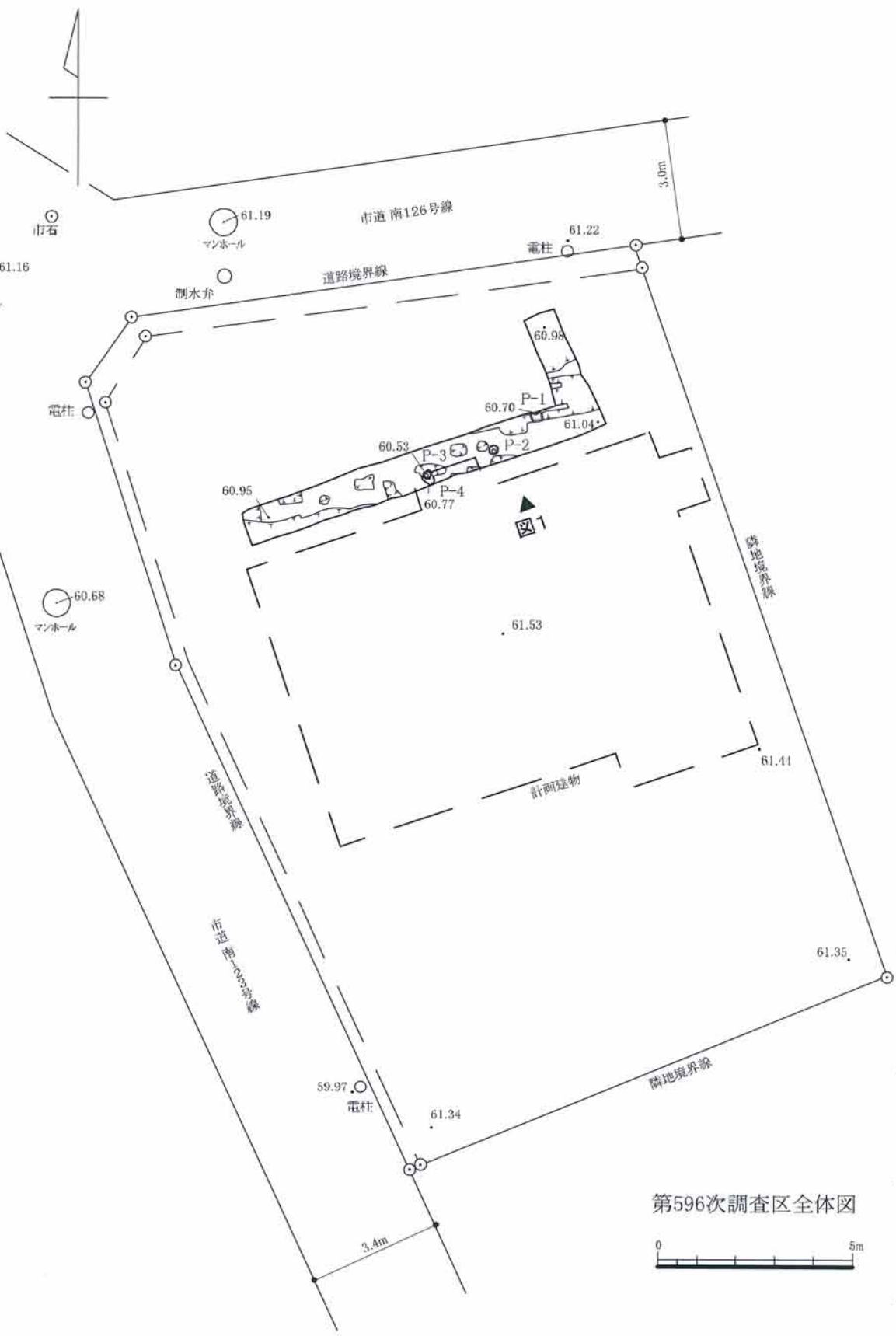
213  
(E639m)

215  
(E645m)

217  
(E651m)

219  
(E657m)

221  
(E663m)



第596次調査区全体図



⑥第 597 次調査 個人宅造地

所在地	東元町三丁目 3-5	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 10. 19～2005. 10. 20
調査面積	4.46 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北 45.5m、東 633.5m に位置し、武蔵国分寺跡東方地域に当たる。調査は排水管埋設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所設定し、本調査を実施したが、遺構・遺物の検出、出土はなかった。

まとめ

武蔵国分僧寺跡寺院地南に位置する。本調査区は、削平がローム面までおよび、包含層は滅失していた。

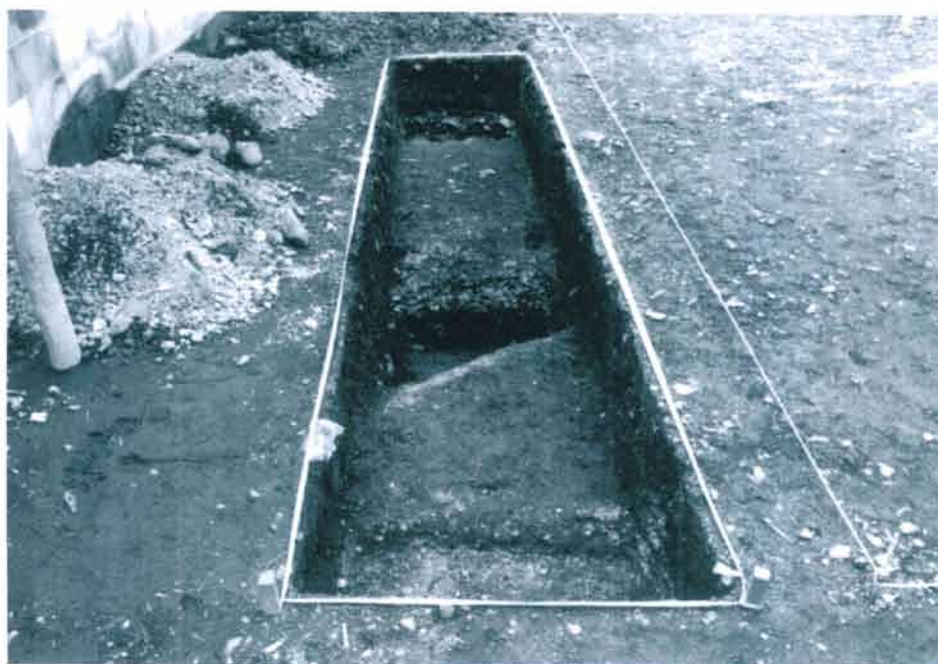


図 1 調査区全景 (南から)



⑦第 598 次調査 個人宅造地

所在地	泉町一丁目 5	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 10. 5～2005. 10. 26
調査面積	72.20 m <sup>2</sup>	担当者	中道 誠
検出遺構	歴史時代…特殊遺構 1 基 縄文時代…小穴 5 基		
出土遺物	歴史時代…土師質土器 縄文時代…土器・石器・礫 旧石器時代…ナイフ形石器		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北 526m、東 396m に位置し、武蔵国分寺跡北方地域に当たる。武蔵野段丘面に位置する。調査は計画建物工事により影響を受ける範囲にトレンチを 2 箇所設定し、本調査を実施した。歴史時代の特殊遺構が 1 基、縄文時代の小穴が 5 基検出された。

まとめ

本調査区は、恋ヶ窪谷に面した斜面際に位置する。削平が部分的にローム面までおよび、歴史時代と縄文時代遺構の遺構がほぼ同一面で確認されたが、覆土の違いで時期を判別した。歴史時代の特殊遺構は斜面に向かって小穴が 6 基、ほぼ一直線に並んでおり、意図的な配列が看取された。ただし、年代を判別する土器が出土していないため、奈良・平安時代の時期区分はされなかった。



図 1 北トレンチ全景 (西から)



図 2 南トレンチ全景 (西から)



図 3 SX274 全景 (東から)

138  
(E414m)

個人住宅

隣地境界線

個人住宅

136  
(E408m)

個人住宅

74.58

74.52

NTT柱  
○(花沢幹 右34/18)  
カーブミラー

マンホール  
74.58

134  
(E402m)

隣地境界線

74.68

74.71

71.64

74.66

木掘攪乱

73.09

73.58

SX274

試験

木掘攪乱

74.35

74.81

道路標識

電柱 ○  
(引張り用)

個人住宅

132  
(E396m)

個人住宅

74.85

74.83

74.83

74.81

倒木板

PJ-4

北トレンチ

PJ-5

74.44

南トレンチ

計画建物

道路境界線

5.47m

共同住宅

130  
(E390m)

木掘攪乱

未掘攪乱

74.58

74.99

74.85

74.95

74.56

74.99

道路標識

消火栓

128  
(E384m)

図1

道路境界線

図2

道路標識

制水弁

マンホール

75.07

75.10

マンホール

第598次調査区全体図

0 5m

道路標識

個人住宅

電柱 [泉町52]  
(NTT 窪地支線 右2/3)

カーブミラー

IS  
(E534m)

IQ  
(N528m)

IO  
(N522m)

IN  
(N516m)

⑧第 599 次調査 個人宅造地

所在地	西元町四丁目 1 地内	遺跡名	武蔵蔵国分寺跡
調査原因	横穴壕埋戻し工事	調査期間	2005. 11. 15～2005. 11. 18
調査面積	4.05 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	昭和時代・横穴壕 1 基		
出土遺物	昭和時代の陶器類 歴史時代・女瓦 縄文時代・石器		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北 42m、西 384m に位置し、伝祥応寺跡と重複する武蔵国分尼寺跡北方地域に当たる。調査は既出している横穴壕内部で遺構・遺物の確認作業を行った。

まとめ

伝鎌倉街道切通し東側に開口した横穴であり、内部は空洞であった。歴史時代等の遺物は検出されず、周辺からは昭和期の陶器が採集され、周辺住民からの聞き取りから、掘削者や掘削時期は不明であるが太平洋戦争当時の防空壕である可能性が高い。調査終了後危険防止のため速やかに埋め、開口部を閉塞した。



図 1 調査区全景 (西から)



図 2 入口部全景 (西から)

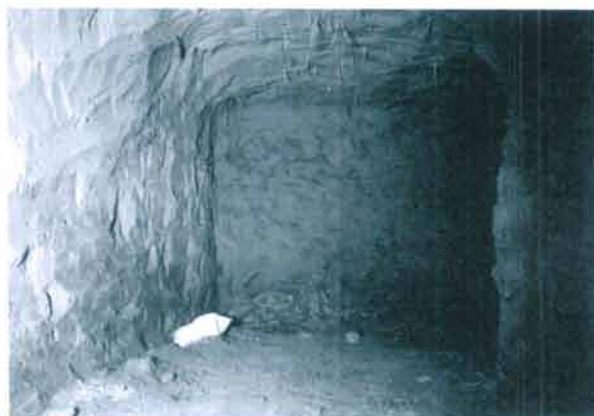


図 3 内部全景 (西から)

AS  
(N54m)

AR  
(N51m)

AQ  
(N48m)

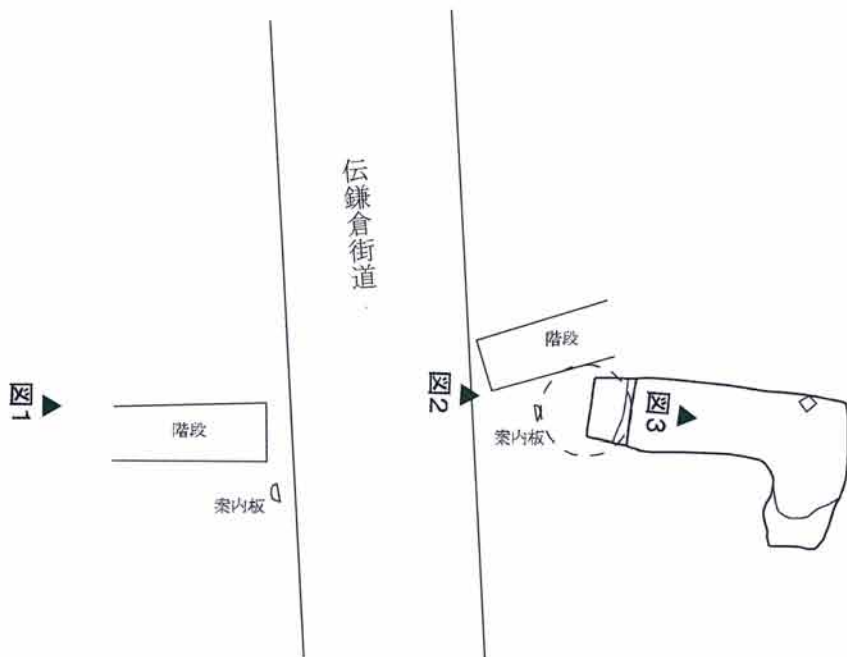
AP  
(N45m)

AO  
(N42m)

AV  
(N39m)

AM  
(N36m)

AL  
(N33m)



第599次調査区全体図



131  
(W393m)

130  
(W390m)

129  
(W387m)

128  
(W384m)

127  
(W381m)

⑨第 600 次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 16-5	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 11. 28～2005. 11. 30
調査面積	1.54 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 264m、東 261mに位置し、武蔵国分寺跡寺院地南西に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを4箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

まとめ

本調査区は、削平がローム面までおよび、包含層は滅失していた。

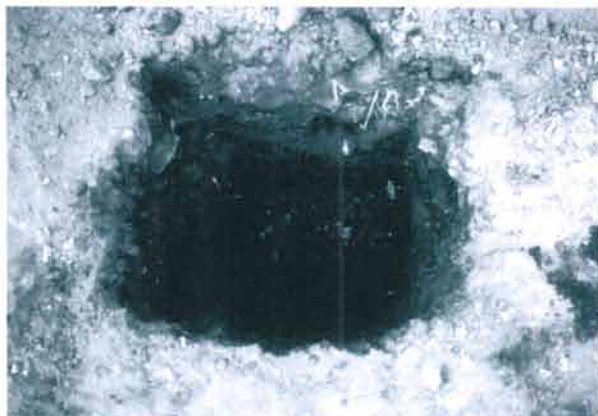


図1 A トレンチ全景 (東から)



図2 B トレンチ全景 (東から)



図3 C トレンチ全景 (東から)



図4 D トレンチ全景 (東から)



EF  
(S255m)

EC  
(S258m)

EI1  
(S261m)

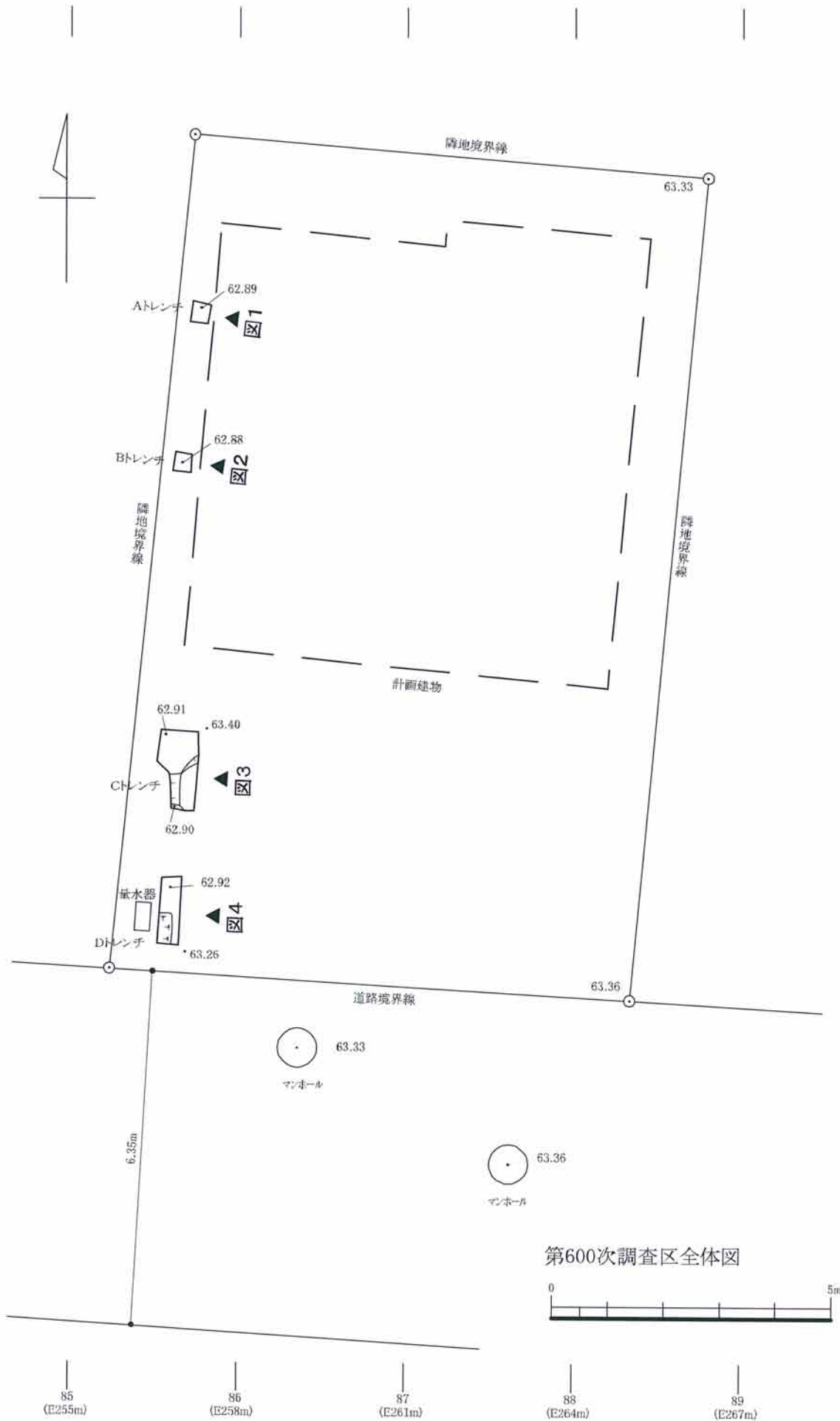
EI  
(S264m)

EJ  
(S267m)

EK  
(S270m)

EL  
(S273m)

EM  
(S276m)



第600次調査区全体図

⑩第 601 次調査 個人宅造地

所在地	東元町四丁目 1796-2・3・4	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 12. 15～2006. 1. 18
調査面積	60.20 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	平安時代…住居 3 軒・溝 1 条・小穴 8 基 縄文時代…小穴 1 基		
出土遺物	平安時代…土師器・須恵器・土師質土器・灰釉陶器・炭化物 縄文時代…土器		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 73.5m、東 522m に位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地東に当たる。調査は計画建  
物工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所、排水管理設により影響を受ける範囲にトレンチを 1  
箇所設定し、本調査を行った。歴史時代の住居が 3 軒、溝 1 条、小穴が 8 基、縄文時代の小穴が 1 基検出  
された。

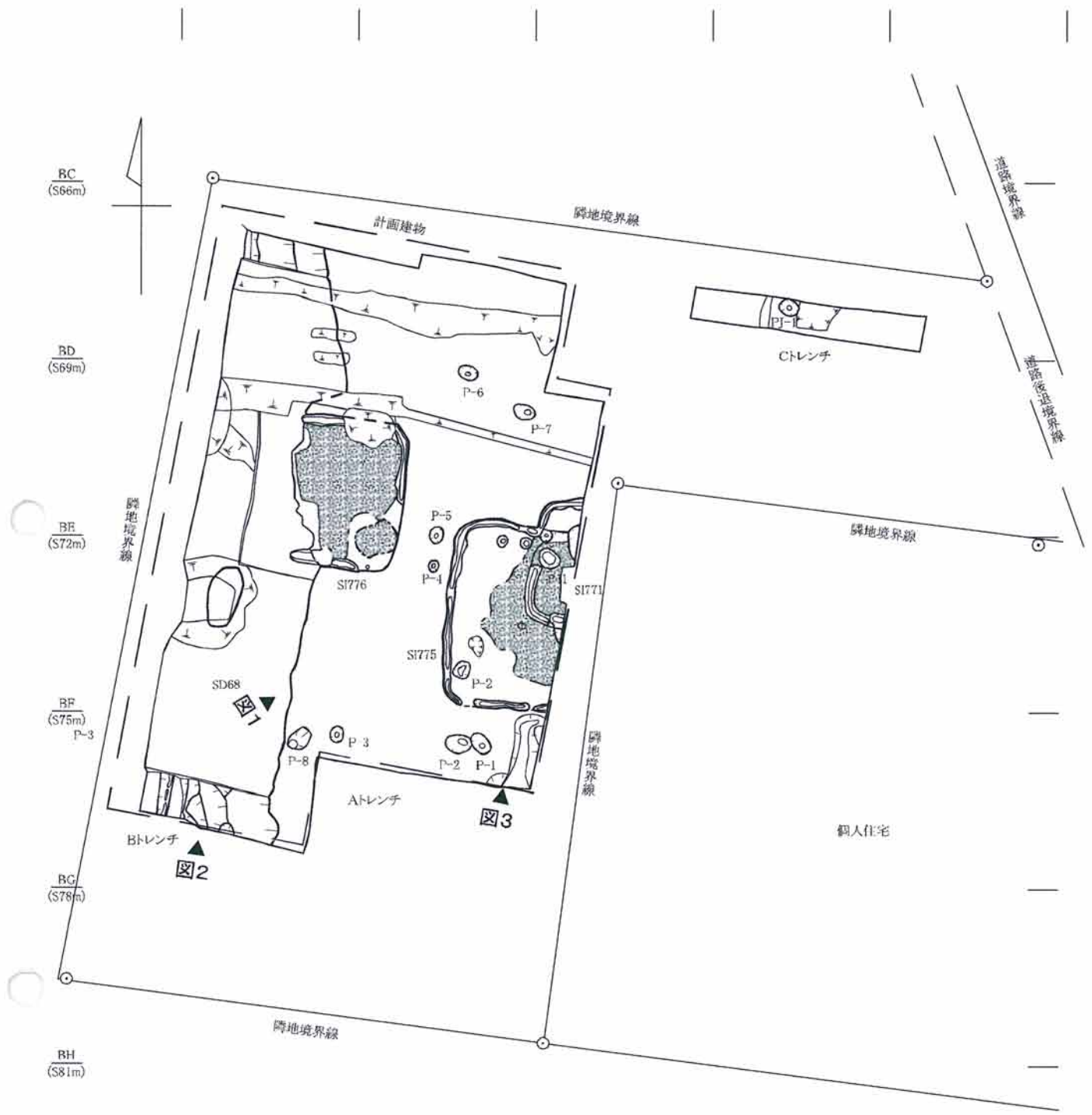
まとめ

第 593 次調査区の西隣地である。本調査区での成果と併せて住居が 6 軒 (SI771・772・773・774・775・  
776) 集中していた。第 593 次調査区で東半分を調査し、今次調査で西半分を調査した SI771 住居の規模は  
残存状況で東西 2.5m、南北 2.4m、確認面からの深さ約 15 cm を測り SI775 住居を切って構築されている。  
SI775 住居のカマドの位置は不明である。規模は残存状況で東西 2 m、南北 3.2m、確認面からの深さ約  
10 cm を測る。周溝は幅 15～20 cm、深さ約 5 cm でほぼ全周している。住居の中央部は極めて硬質な床面を  
有している。SI776 住居は、西側を SD68 溝に切られている。規模は残存状況で東西 1.9m、南北 2.7m、  
確認面からの深さ約 15 cm を測る。周溝は幅 15～30 cm、深さ約 3 cm でほぼ全周していると思われる。SI775  
住居同様に住居の中央部は極めて硬質な床面を有している。床面南東隅には炉と考えられる焼土が堆積し  
た浅い窪みを検出した。炉の規模は長径 70 cm、短径 55 cm で深さ約 10cm を測り、炭化材が出土した。

調査区の削平が著しいせいもあるが、SI771・774・775・776 住居は確認面からわずかに掘り下げた深さ  
で床面が検出され、掘り込みが浅く、規模も一辺 3 m 台が SI775 住居のみで、他は 2 m 台と小さい。全体  
を調査できた住居はないが、いずれもカマドは検出されず、SI776 住居で炉が検出された。SI772・773 住  
居は、調査部分が狭小であり全体はつかめないが、後者でカマド (北カマド) が検出された。

出土遺物は、SI771・774・775・776 住居は、須恵器坏・甕、土師器甕、女瓦などが出土したが、いづれ  
も小片である。SI772 住居は、ほぼ完形の土師質土器坏と高台付埴などが出土し、衰退期 (Ⅲ期) 以降に  
比定される。SI773 住居は、カマド内から土師器甕、男瓦、女瓦などが出土した。

本調査区周辺の既往調査では住居の報告例は少なく、集落の範囲外という認識であった。しかしながら  
第 593 次調査においても、調査区外に延びる住居が検出されており、僧尼寺中間地点のような密集度では  
ないが、数軒単位の小集落が点在した可能性が指摘される。今後本調査区周辺の調査は注意を要する。ま  
た、SD68 溝は建物建築の掘削影響を受けないため、確認に留めた。南北方向に走り、本調査区では東側の  
立ち上がりが確認され、西立ち上がりは調査区外にある。部分的な掘削では、やや階段状に立ち上がり、  
寺院地等の区画溝のような箱型を呈していないことから、中世以降の溝と想定される。



凡例  
硬質面(貼床)

第601次調査区全体図



BC  
(S66m)

BD  
(S69m)

BE  
(S72m)

BF  
(S75m)

BG  
(S78m)

BH  
(S81m)

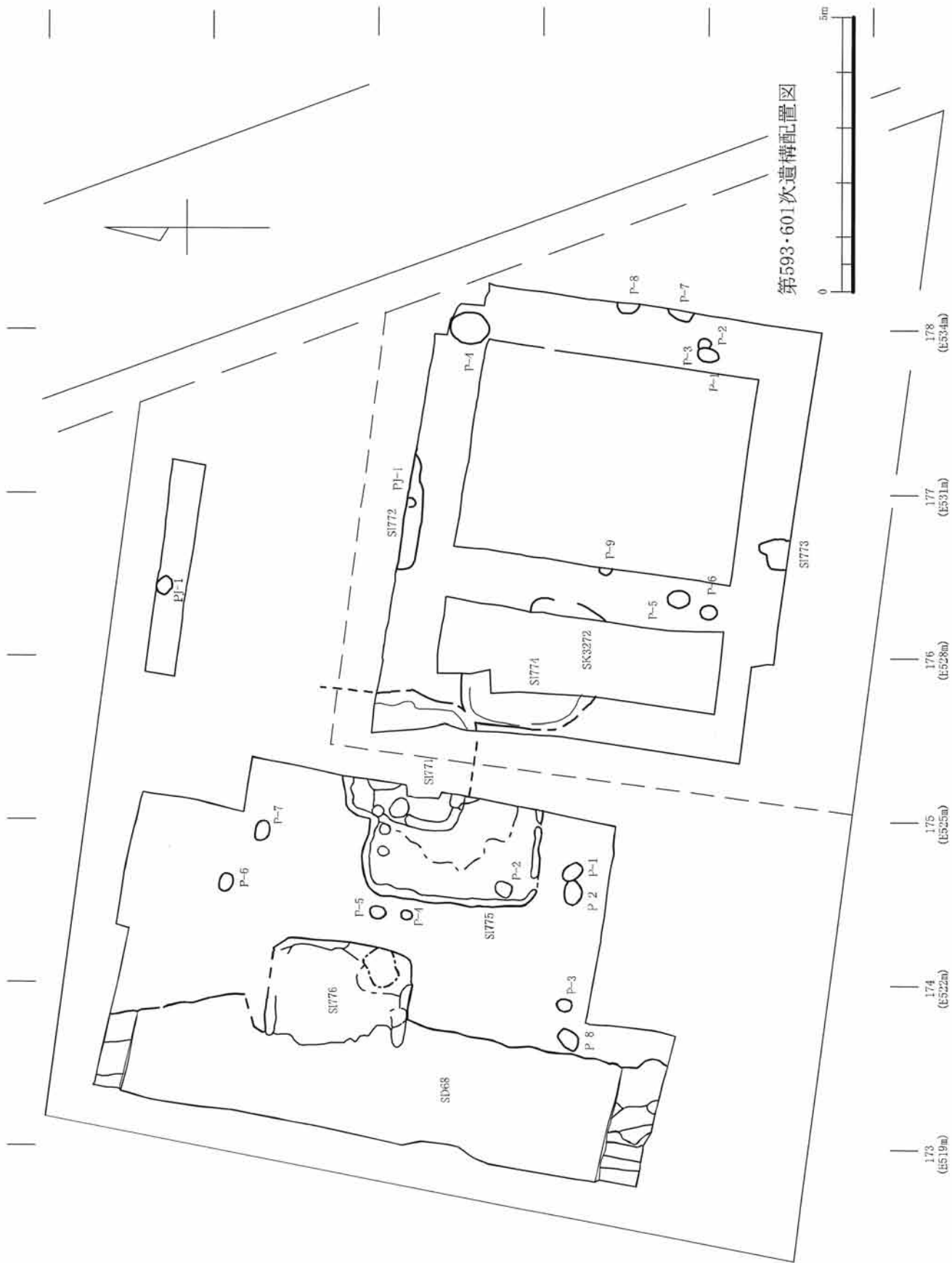




図1 Aトレンチ全景(南西から)



図2 Bトレンチ全景(南から)



図3 SI771・775 全景(南から)

⑪第 602 次調査 個人宅造地

所在地	東元町三丁目 1440-3	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 12. 20～2005. 12. 21
調査面積	3.20 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北 124m、東 565mに位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地東に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 1 箇所、敷地南側にトレンチを 1 箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

まとめ

本調査区周辺は野川の南岸にあたり厚い黒色土の堆積が認められる地域であるが、遺構は検出されなかった。

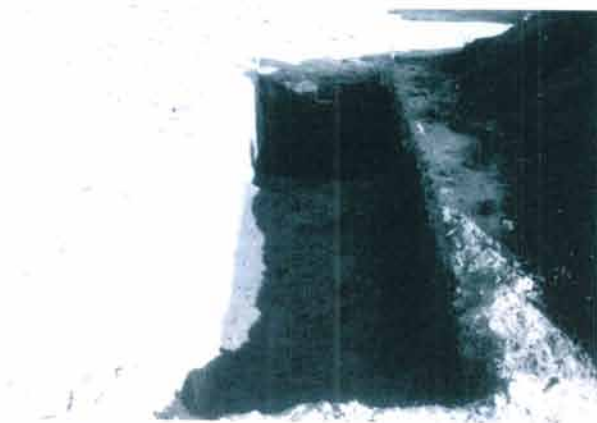


図 1 北トレンチ全景 (西から)



図 2 南トレンチ全景 (南から)

CE  
(N132m)

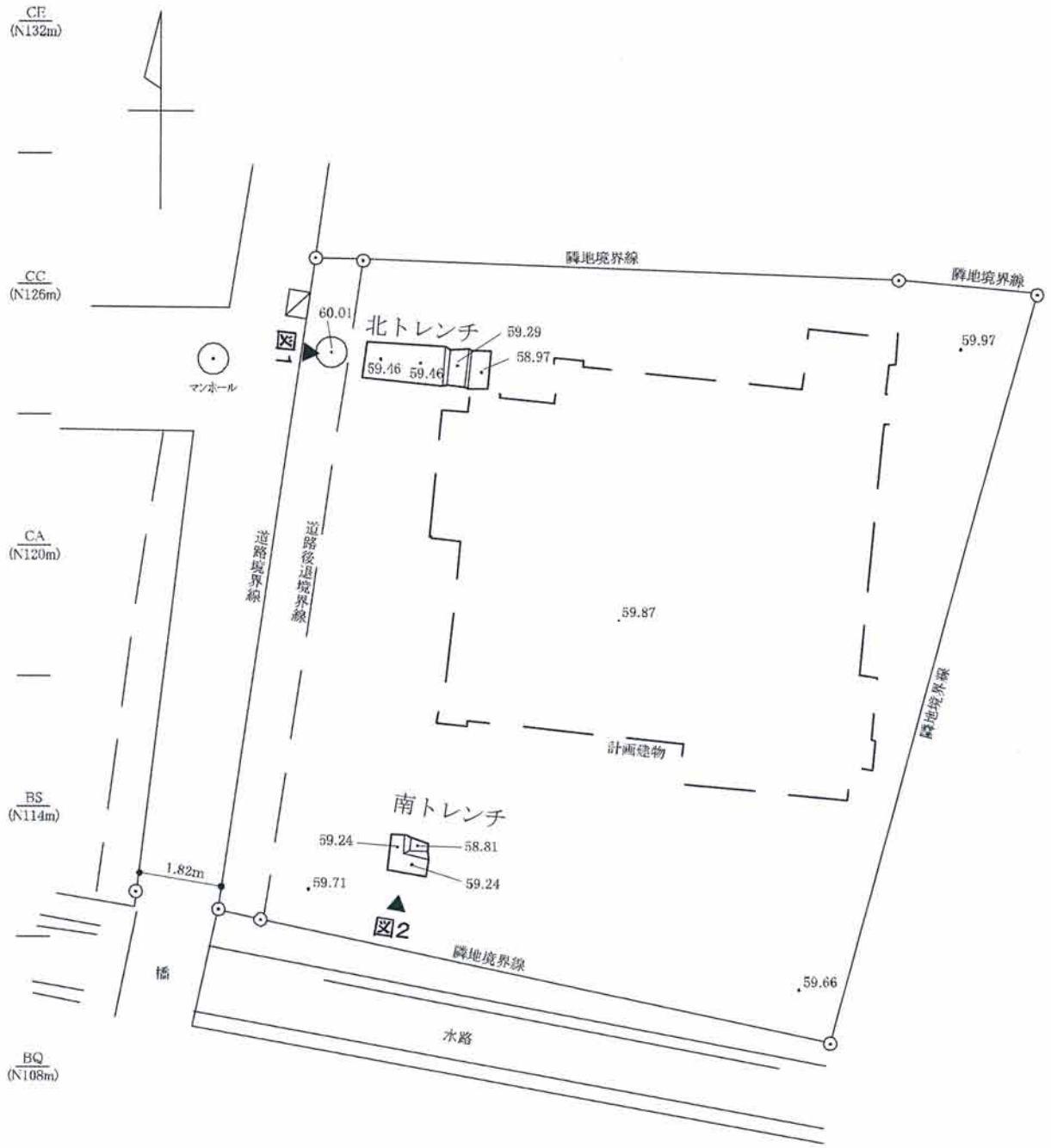
CC  
(N125m)

CA  
(N120m)

BS  
(N114m)

BQ  
(N108m)

BO  
(N102m)



第602次調査区全体図



186  
(E558m)

188  
(E564m)

190  
(E570m)

192  
(E576m)

⑫第 604 次調査 個人宅造地

所在地	東元町三丁目 1404-2	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2006. 2. 9～2006. 2. 14
調査面積	7.50 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北 174m、東 699m に位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地東に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 2 箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

まとめ

本調査区周辺は野川の北岸にあたり厚い黒色土の堆積が認められる地域であるが、当該地は削平が著しく包含層は滅失していた。



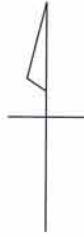
図 1 北トレンチ全景 (東から)



図 2 南トレンチ全景 (西から)



DC  
(N186m)



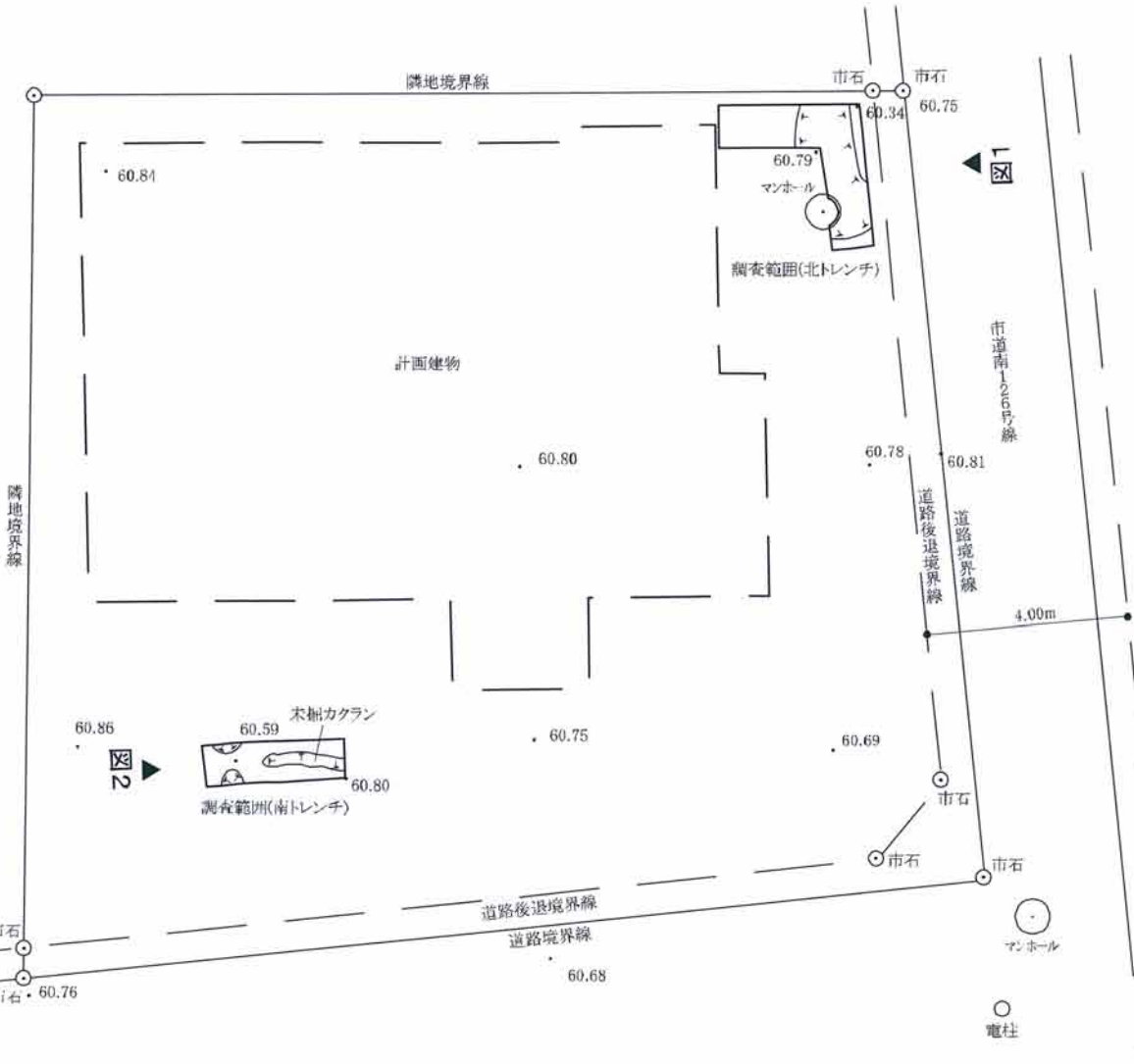
DA  
(N180m)

CS  
(N174m)

CQ  
(N168m)

CO  
(N162m)

CM  
(N156m)



第604次調査区全体図



230  
(E690m)

232  
(E696m)

234  
(E702m)

236  
(E708m)

⑬第 17 次調査 個人宅造地

所在地	本町四丁目 2803-13	遺跡名	花沢西遺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 6. 14～2005. 6. 17
調査面積	2.80 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は日本測地系の第 9 系に於いて南 33.506m、西 31.976m に位置し、花沢西遺跡に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを 2 箇所設定し、本調査を行った。当該遺跡の主要時代である旧石器時代の遺構・遺物の検出、出土はなかった。

まとめ

遺跡の東側傾斜地に位置し、恋ヶ窪谷の入り口部分の斜面地にあたり旧石器時代の遺物出土条件としては絶好の地形であったが、削平が著しく工事影響範囲においての旧石器時代遺物包含層は滅失していた。

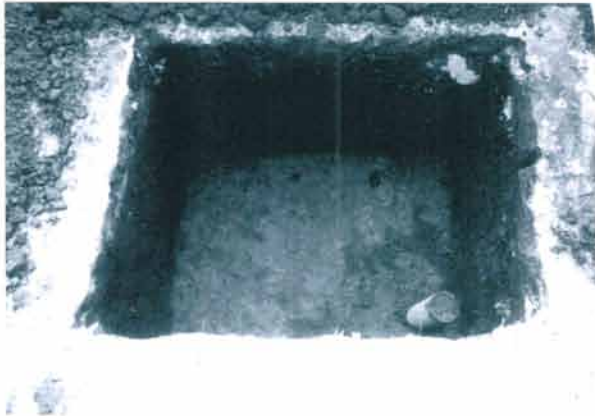


図 1 北トレンチ全景 (東から)



図 2 南トレンチ全景 (西から)

DJL  
(-33490m)

DJV  
(-33492m)

DJW  
(-33494m)

DJX  
(-33496m)

DJY  
(-33498m)

DKA  
(-33500m)

DKB  
(-33502m)

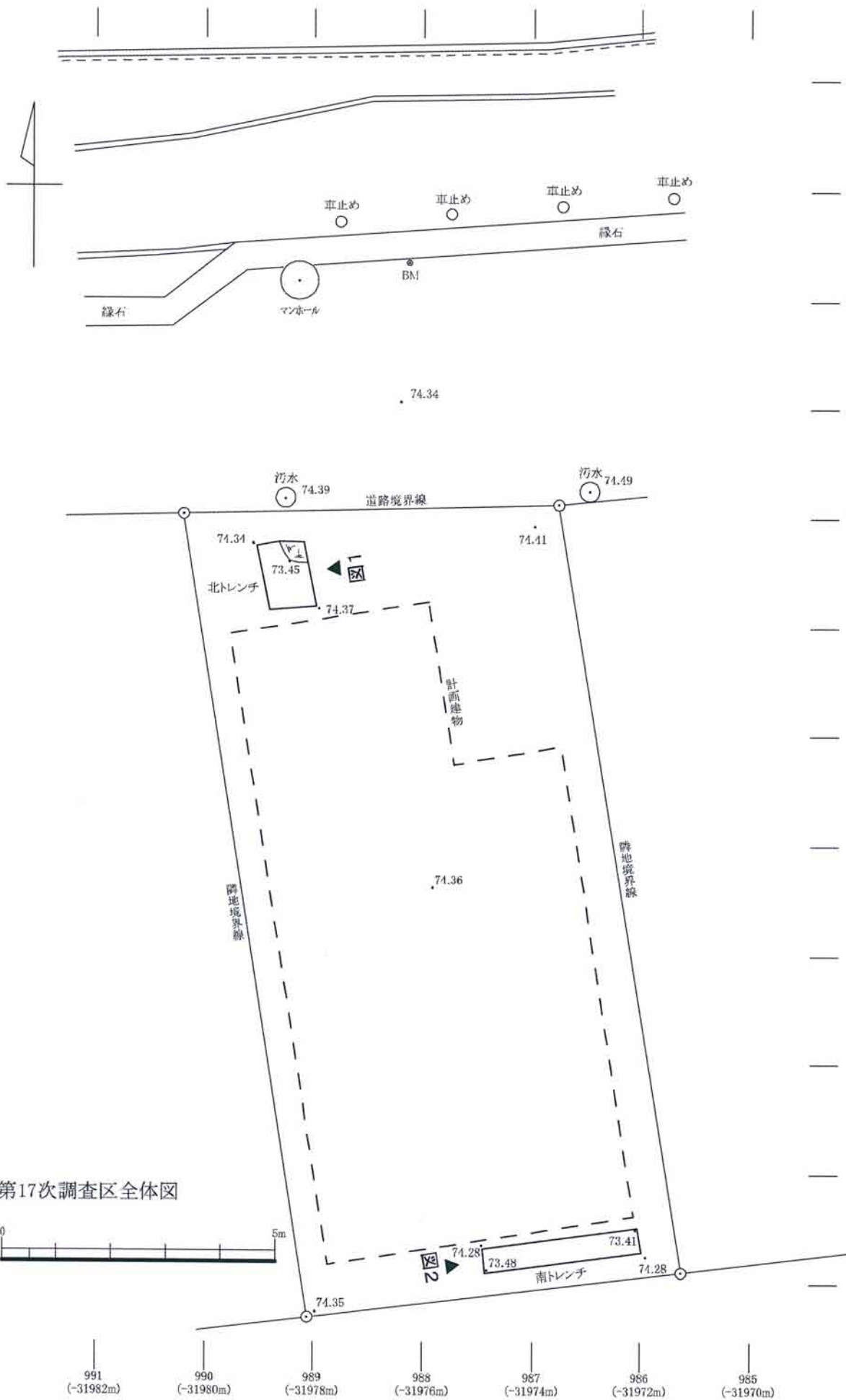
DKC  
(-33504m)

DKD  
(-33506m)

DKE  
(-33508m)

DKF  
(-33510m)

DKG  
(-33512m)



第17次調査区全体図

⑭第 19 次調査 個人宅造地

所在地	南町三丁目 2799-20	遺跡名	花沢西遺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	2005. 12. 1～2005. 12. 26
調査面積	63.15 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	縄文時代…小穴 9 基 旧石器時代…石器集中地点 1 箇所・礫群 2 箇所		
出土遺物	縄文時代…土器・礫 旧石器時代…ナイフ形石器・礫		

調査の概要

当地区は日本測地系の第 9 系に於いて南 33.588m、西 31.996m に位置する。調査は計画建物工事により影響を受ける範囲全面の本調査を行った。縄文時代の小穴が 9 基、旧石器時代の石器集中地点 1 箇所、礫群が 2 箇所検出された。

まとめ

遺跡の東側傾斜地に位置し、恋ヶ窪谷の入り口部分の斜面地に当たる。第 17 次調査区とは中央線を挟んで対岸に位置する。縄文時代遺構は用途不明の小穴群が検出されたが、土器が伴出していないため時期は判別できない。旧石器時代については、立川ローム IV 層下部から V 層上部のナイフ形石器主体の石器集中地点 (ST19) が検出された。集中の範囲は南北 3.7m、東西 2.5m の範囲で分布を確認した。主たる母岩は珪質頁岩の小円礫であり、小型で細身の小石刃が剥離されている。SR9 礫群は南北 3.1m、東西 2.6m の範囲で分布を確認した。SR10 礫群は南北 2.4m、東西 1.5m の範囲で分布を確認した。



図 1 東区縄文・旧石器時代全景 (西から)



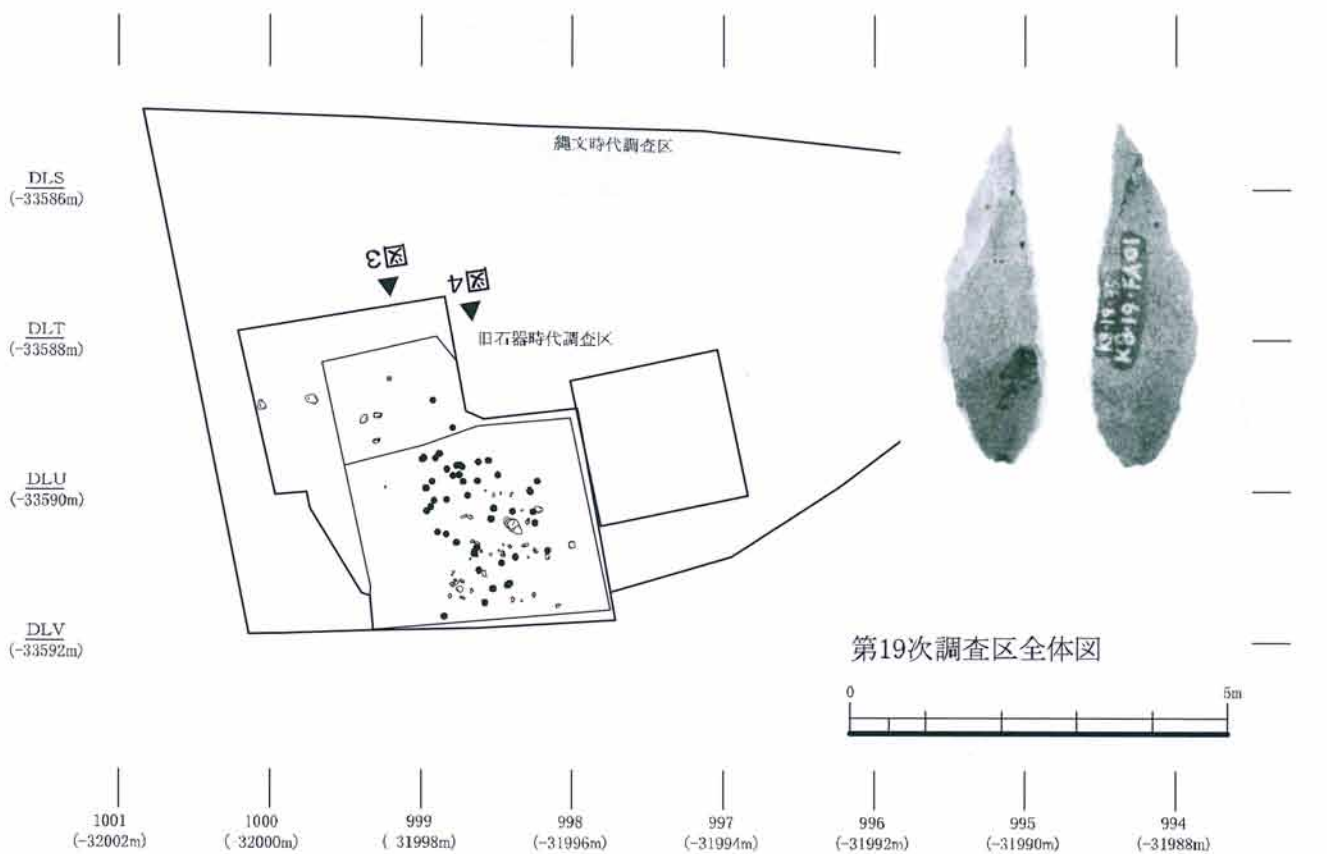
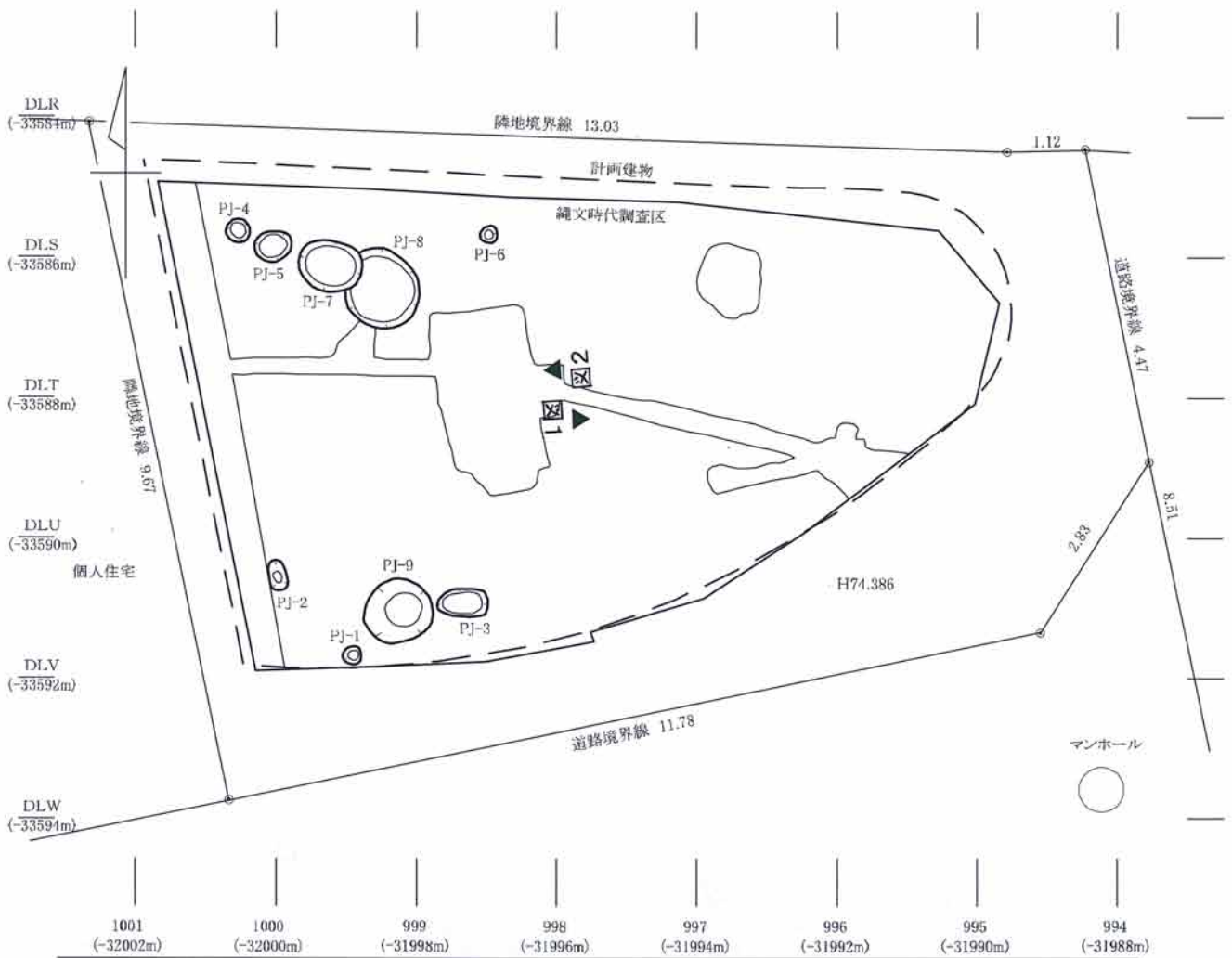
図 2 西区縄文・旧石器時代全景 (東から)



図 3 西区旧石器時代出土状況 (北から)



図 4 西区旧石器時代南壁 sec. (北から)



⑮第 4 次調査	個人宅造地	遺跡名	殿ヶ谷戸遺跡
所在地	南町二丁目 282-10・45	調査期間	2005. 5. 9～2005. 6. 2
調査原因	個人住宅建設	担当者	上村 昌男
調査面積	66.92 m <sup>2</sup>		
検出遺構	歴史時代…小穴 1 基 縄文時代…小穴 19 基		
出土遺物	縄文時代…土器・礫		

#### 調査の概要

当地区は日本測地系の第 9 系に於いて南 33.693m、西 31.280m に位置し、遺跡の東側傾斜地で本多谷の南斜面地に当たる。調査は計画建物工事により影響を受ける範囲全面を対象に本調査を行った。歴史時代の小穴が 1 基、縄文時代の小穴が 19 基検出された。また、工事がローム面に及ぶため、影響範囲の調査を併せて行ったが、旧石器時代の遺構・遺物の検出、出土はなかった。

#### まとめ

歴史時代の遺物は出土していないため歴史時代小穴の時期は不明。縄文時代小穴群は中期中葉の勝坂期の土器が共伴した。



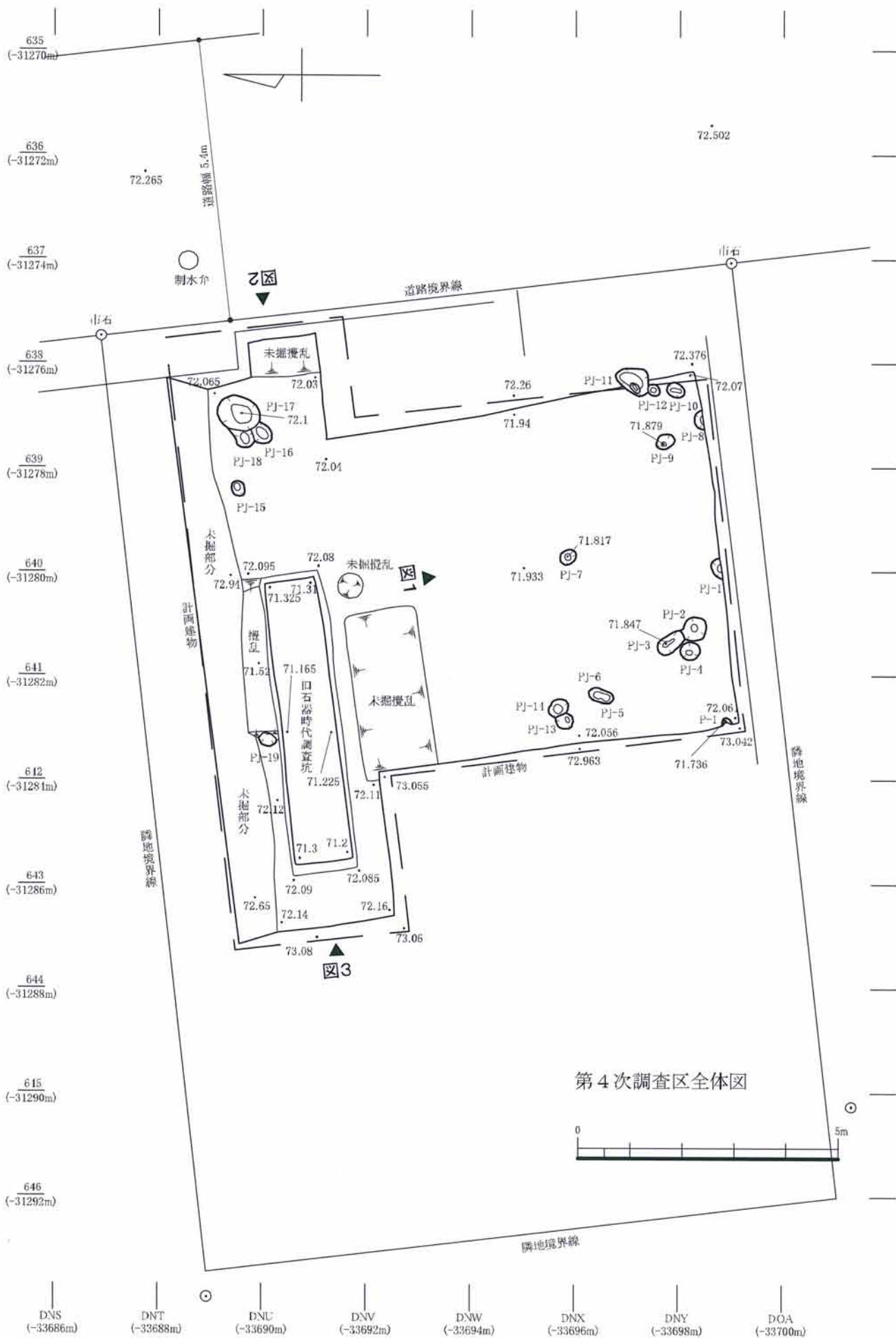
図 1 南区縄文時代全景（北から）



図 2 北区縄文・旧石器時代全景（東から）



図 3 北区旧石器時代全景（西から）



第4次調査区全体図

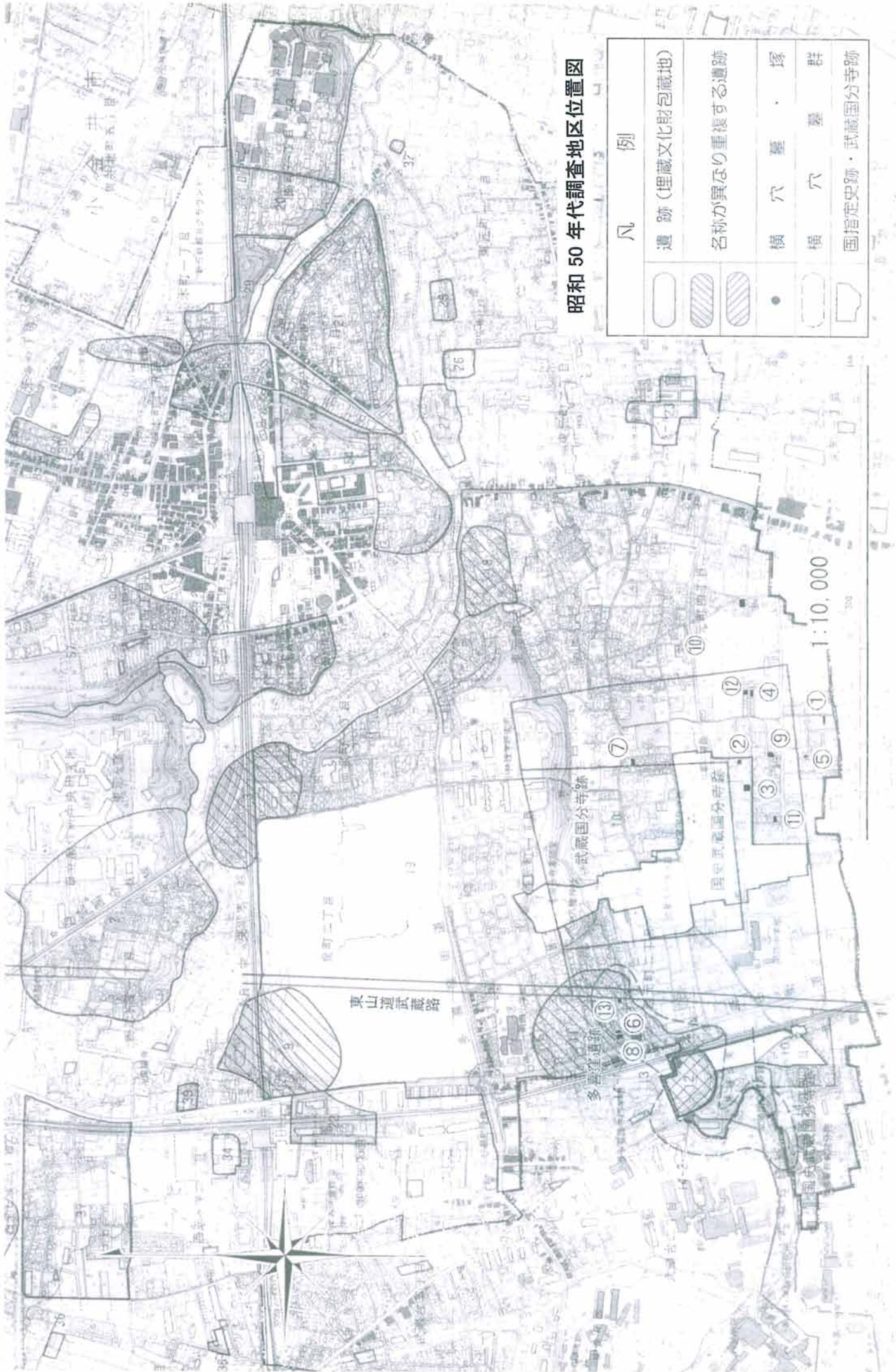
付 編 昭和 50 年代の小規模調査概要

表15 武蔵国分寺跡 個人宅造に伴う本発掘調査

地区 番号	遺跡 番号	調査原因 調査回数	所在地	面積 (㎡)			現地調査期間	検出遺構	遺物 箱数
				調査	工事	対象			
①	19	個人宅造地 第95次調査	西元町3丁目 1889-19	15.50	—	141.86	S54. 6. 4~S54. 6. 5 (2日間)	検出遺構なし	0
②	10・19	個人宅造地 第110次調査	西元町3丁目 2031-2	69.50	—	128.37	S55. 4. 25~S55. 5. 12 (8日間)	検出遺構なし	0
③	10・19	個人宅造地 第123次調査	西元町3丁目 20-13	13.14	—	15.36	S55. 12. 1~S55. 12. 2 (2日間)	検出遺構なし	0
④	19	個人宅造地 第159次調査	東元町4丁目 1945-18・19・ 20	36.00	63.19	153.76	S57. 10. 27~S57. 11. 6 (6日間)	検出遺構なし	0
⑤	10・19	個人宅造地 第172次調査	西元町3丁目 1902-6	14.00	55.48	92.95	S58. 3. 7~S58. 3. 15 (5日間)	検出遺構なし	0
⑥	10・19	個人宅造地 第178次調査	西元町2丁目 2548-76・83	16.00	59.60	135.53	S58. 7. 15~S58. 7. 21 (5日間)	検出遺構なし	0
⑦	10・19	個人宅造地 第180次調査	西元町3丁目 1531	4.00	12.68	175.39	S58. 8. 1~S58. 8. 3 (3日間)	検出遺構なし	0
⑧	10・19	個人宅造地 第189次調査	西元町2丁目 2548-43	45.00	106.80	166.14	S59. 1. 30~S59. 2. 3 (4日間)	検出遺構なし	0
⑨	19	個人宅造地 第191次調査	西元町3丁目 1915-16・23	29.00	56.55	189.08	S59. 3. 1~S59. 3. 7 (6日間)	検出遺構なし	0
⑩	19	個人宅造地 第195次調査	東元町4丁目 1752-3	26.00	44.62	150.38	S59. 4. 17~S59. 4. 24 (5日間)	検出遺構なし	0
⑪	10・19	個人宅造地 第211次調査	西元町3丁目 2058-17	20.30	43.00	146.00	S59. 9. 12~S59. 9. 20 (5日間)	検出遺構なし	0
⑫	10・19	個人宅造地 第221次調査	東元町4丁目 1945-15	8.04	40.50	135.16	S59. 12. 19~S59. 12. 24 (4日間)	検出遺構なし	0
⑬	10・19	個人宅造地 第222次調査	西元町2丁目 2548-6	8.00	62.68	158.26	S59. 12. 21 ~S59. 12. 25 (4日間)	検出遺構なし	0
面積合計				304.48	545.10	1788.24		箱数合計	0



# 昭和50年代調査地区位置図



凡 例	
	遺 跡 (埋蔵文化財包蔵地)
	名称が異なる重複する遺跡
	横 穴 墓 ・ 塚
	横 穴 墓 群
	国指定史跡・武蔵国分寺跡

①第95次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 1889-19	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1979. 6. 4～1979. 6. 5
調査面積	15.50 m <sup>2</sup>	担当者	有吉 重蔵
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

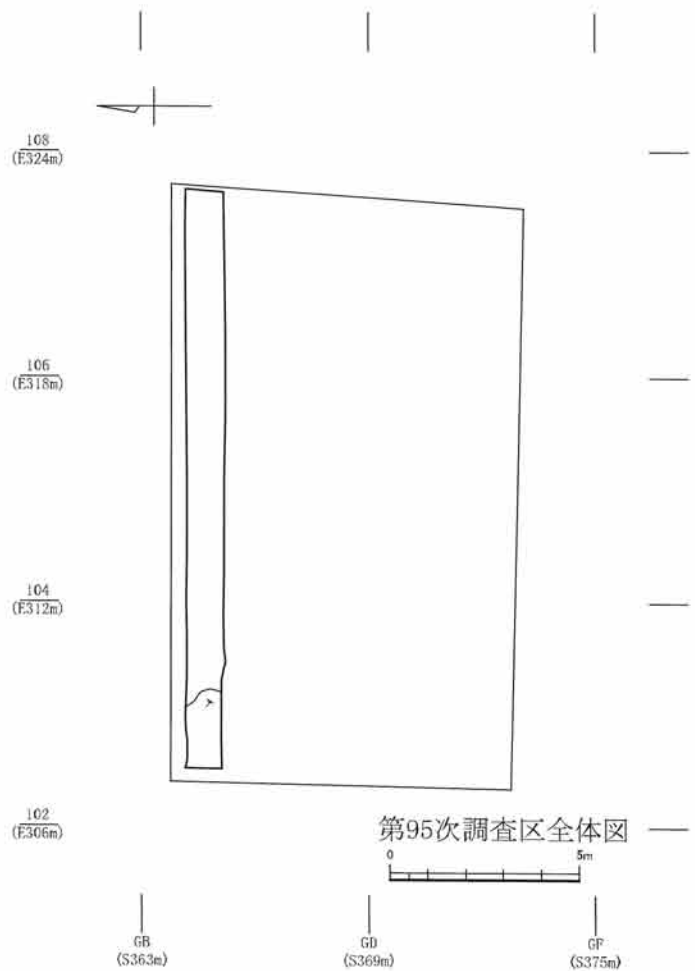
当地区は僧寺中軸線の南365m、東315mに位置し、武蔵国分寺跡南方地域に当たる。調査は排水管理設  
 工事により影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はな  
 かった。

昭和51年度、第24次調査において検出されたSD37溝の南延長部分付近に当たるが、本地区以外に存  
 在するものと考えられる。

当該地区周辺では、溝を除き、遺構の分布は希薄であると思われる。



図1 調査区全景（東から）



②第110次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 2031-2	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1980. 4. 25～1980. 5. 12
調査面積	69.50 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南182m、東248mに位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に当たる。調査は建物基礎部分および配水管等埋設工事により影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図1 調査区全景（北から）

③第123次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 20-13	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1980. 12. 1～1980. 12. 2
調査面積	13.14 m <sup>2</sup>	担当者	有吉 重蔵・平田 貴正
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南71m、東196mに位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図1 調査区全景（西側）（東から）

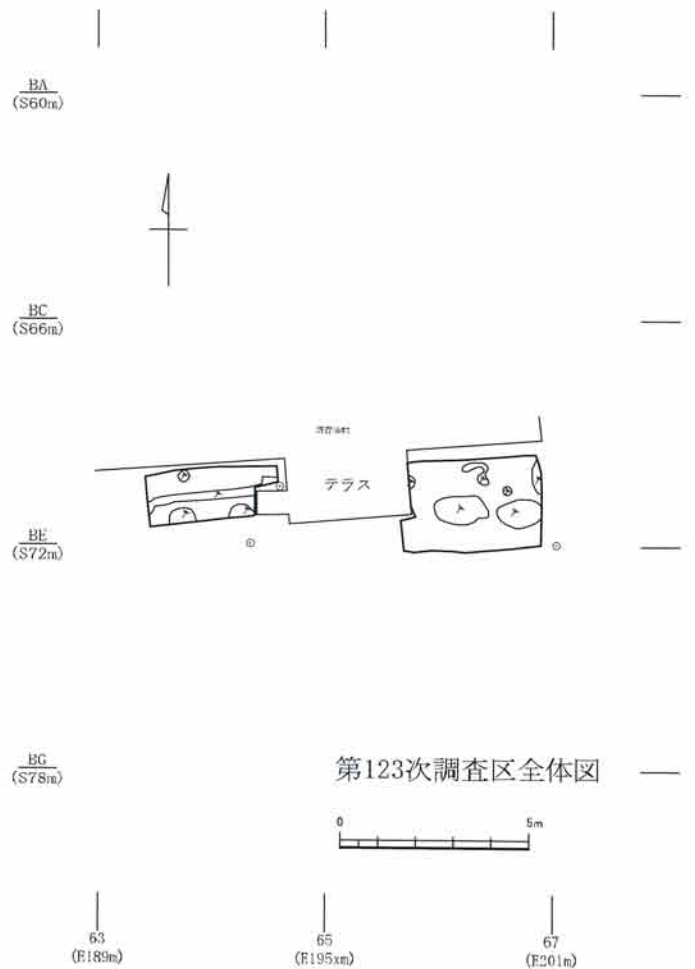


図2 調査区全景（東側）（東から）

④第159次調査 個人宅造地

所在地	東元町四丁目 1945-18・19・20	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1982. 10. 27～1982. 11. 6
調査面積	36.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

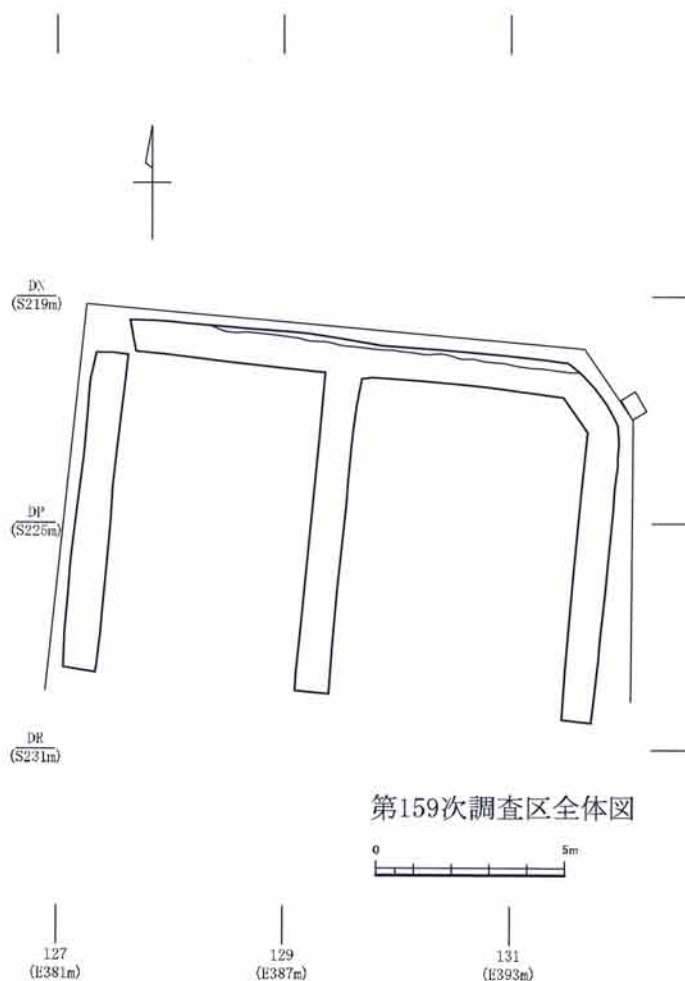
調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南225m、東388mに位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを4箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

当該地区は「苑院・花園院」に想定される地区であり、調査の結果、遺構が検出されなかったことで、「苑院・花園院」の想定を裏付ける形となった。



図1 南北トレンチ西側全景(北から)



⑤第172次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 1902-6	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1983. 3. 7~1983. 3. 15
調査面積	14.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

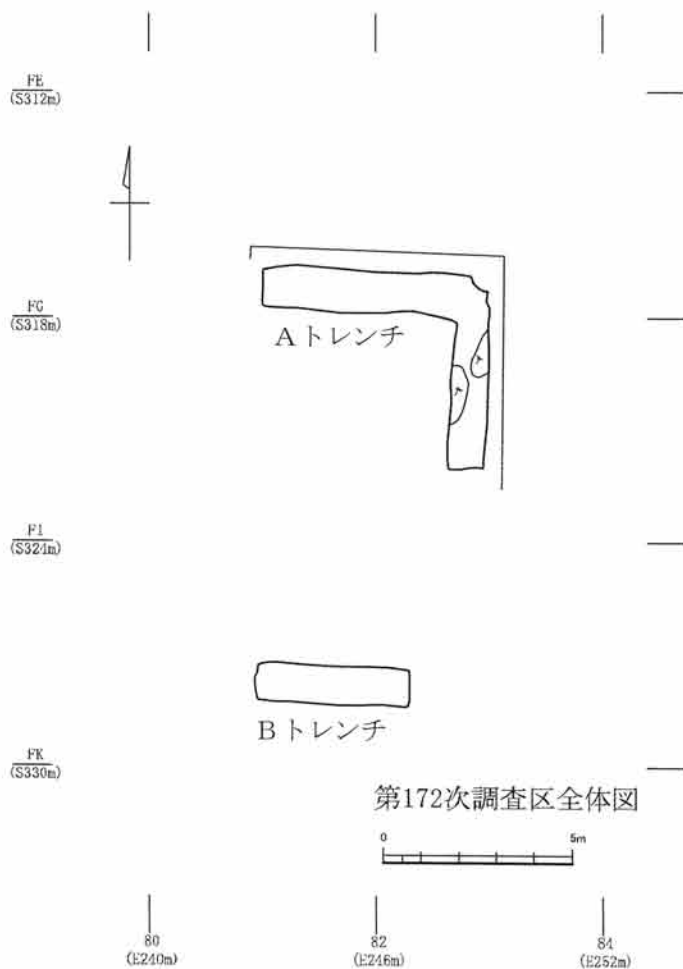
当地区は僧寺中軸線の南322m、東241mに位置し、武蔵国分寺跡南方地域に当たる。調査は排水管理設  
 工事により影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はな  
 かった。



図1 Aトレンチ全景 (西から)



図2 Bトレンチ全景 (西から)



昭和50年代 各調査の概要

⑥第178次調査 個人宅造地

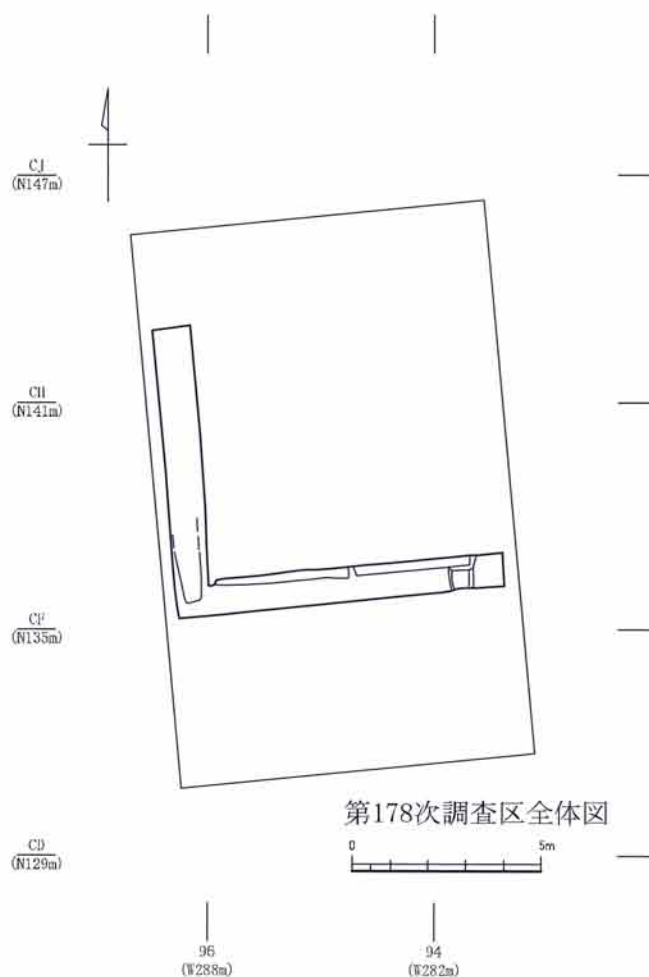
所在地	西元町二丁目 2548-76・83	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1983. 7. 15～1983. 7. 21
調査面積	16.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北136m、西285mに位置し、武蔵野段丘面際の武蔵国分僧寺北方地域に当たる。東に東山道武蔵路が通り、多喜窪遺跡と重複する。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲を対象にトレンチを1箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図1 南北トレンチ全景 (南から)



⑦第180次調査 個人宅造地

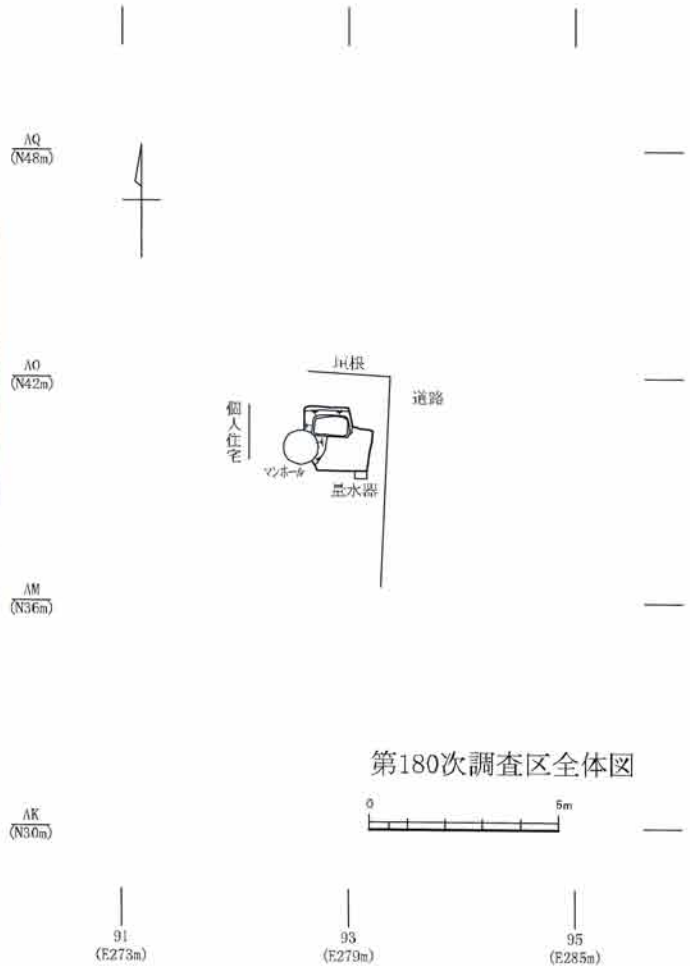
所在地	西元町三丁目 1531	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1983. 8. 1～1983. 8. 3
調査面積	4.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北41m、東279mに位置し、武蔵国分寺跡寺院地東方地域に当たる。立川段丘上で武蔵国分僧寺跡の伽藍地東辺区画溝の東際に位置する。調査は污水枘設置工事により影響を受ける範囲を対象にトレンチを1箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図1 調査区全景（西から）





⑧第189次調査 個人宅造地

所在地	西元町二丁目 2548-43	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1984. 1. 30～1984. 2. 3
調査面積	45.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北137m、西295mに位置し、武蔵野段丘面際の武蔵国分僧寺北方地域に当たる。東に東山道武蔵路が通り、多喜窪遺跡と重複する。調査は建物基礎部分及び排水管等埋設工事により影響を受ける範囲を対象にトレンチを2箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図1 Bトレンチ全景（西から）



⑨第191次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 1915-16, 23	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1984. 3. 1～1984. 3. 7
調査面積	29.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南 253m、東 260mに位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に当たる。調査は排水管理設工事に影響を受ける範囲にトレンチを2箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

当該地区は「苑院・花園院」に想定される地区であり、調査の結果、遺構が検出されなかったことで、「苑院・花園院」の想定を裏付ける形となった。



図1 Bトレンチ全景 (南から)



第191次調査区全体図

昭和50年代 各調査の概要

⑩第195次調査 個人宅造地

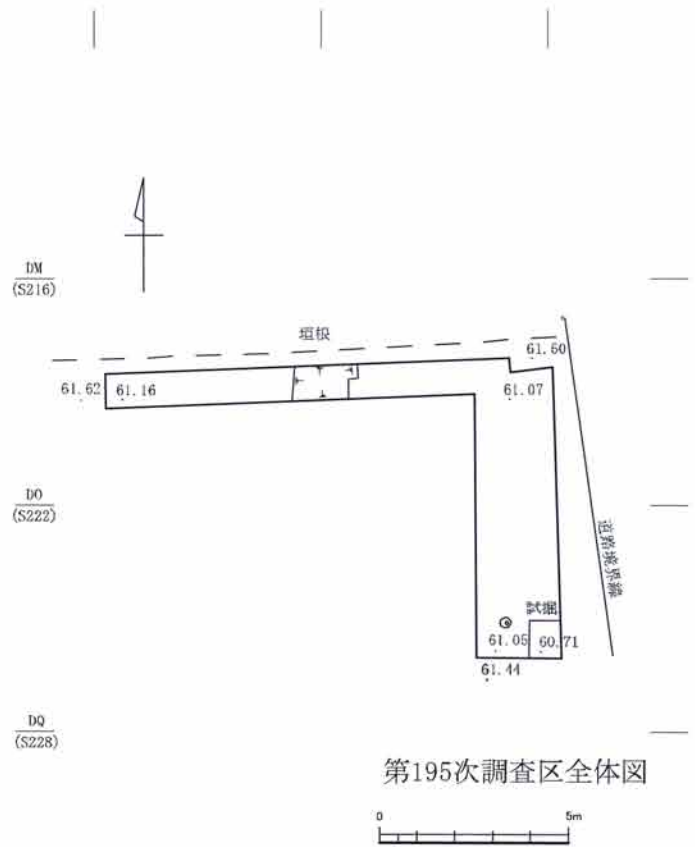
所在地	東元町四丁目 1752-3	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1984. 4. 17～1984. 4. 24
調査面積	26.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南222m、東579mに位置し、立川段丘上の武蔵国分寺跡東方地域に当たる。寺院地東辺区画溝の外側に位置する。調査は排水管理設工により影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図1 調査区全景（東から）



第195次調査区全体図



①第211次調査 個人宅造地

所在地	西元町三丁目 2058-17	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1984. 9. 12～1984. 9. 20
調査面積	20.30 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

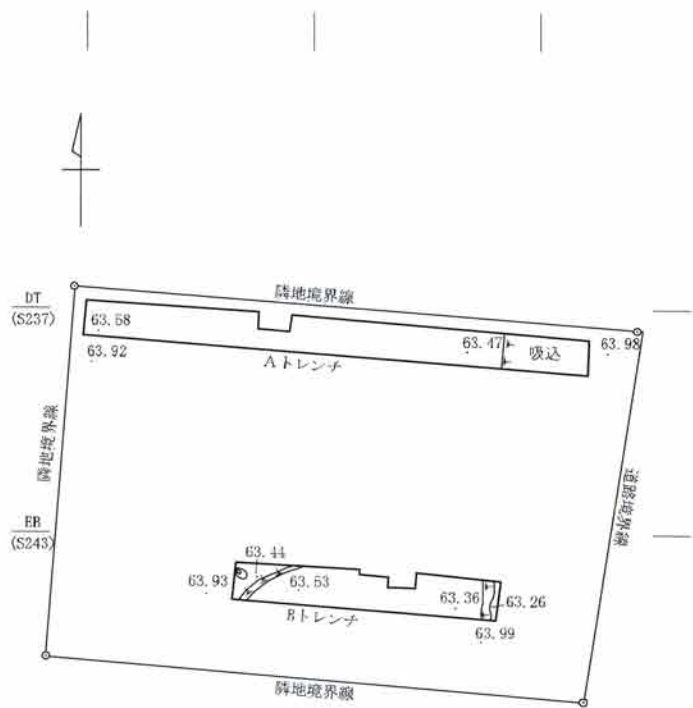
調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南241m、東124mに位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に当たる。調査は排水管理設工により影響を受ける範囲にトレンチを2箇所を設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。

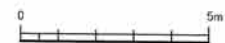
当該地区は「苑院・花園院」に想定される地区であり、調査の結果、遺構が検出されなかったことで、「苑院・花園院」の想定を裏付ける形となった。



図1 Aトレンチ全景（東から）



第211次調査区全体図



昭和50年代 各調査の概要

⑫第221次調査 個人宅造地

所在地	東元町四丁目 1945-15	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1984. 12. 19～1984. 12. 24
調査面積	8.04 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の南211m、東390mに位置し、武蔵国分僧寺跡寺院地内南東地区に当たる。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲にトレンチを1箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図1 調査区全景 (南から)



⑬第222次調査 個人宅造地

所在地	西元町二丁目 2548-6	遺跡名	武蔵国分寺跡
調査原因	個人住宅建設	調査期間	1984. 12. 21～1984. 12. 25
調査面積	8.00 m <sup>2</sup>	担当者	上村 昌男
検出遺構	なし		
出土遺物	なし		

調査の概要

当地区は僧寺中軸線の北131m、西223mに位置し、武蔵野段丘面際の武蔵国分僧尼寺中間に当たる。東に東山道武蔵路が通り、多喜窪遺跡と重複する。調査は排水管理設工事により影響を受ける範囲を対象にトレンチを2箇所設定し、本調査を行った。遺構・遺物の検出、出土はなかった。



図1 A トレンチ全景 (西から)



平成16・17年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報

---

発行日	第1刷 平成19年3月31日
編著者	国分寺市遺跡調査団 ©(団長 坂詰秀一)
発行所	国分寺市遺跡調査会 〒185-8501 国分寺市戸倉1-6-1 TEL 042-325-0111 (代表) 国分寺市教育委員会内
印刷所	共同印刷所

---

令和4年(2022)3月2日 デジタル版作成